



檜葉町保健・福祉ビジョン (案)

平成27年3月

檜 葉 町

目 次

1. 保健・福祉ビジョンの概要	1
(1) 概要	
(2) 計画の位置づけ	
2. 保健福祉の方向性	4
(1) 避難後の町民の生活環境や家族関係などの状況	
①避難状況	
②帰還の住民の意向	
③避難後の町民の生活環境や家族関係などの状況	
④保健・医療・福祉・教育・スポーツ関係施設の状況	
(2) 帰町にあたってのまちづくりに必要なこと	
(3) 新たなコミュニティの構築	
(4) 檜葉町土地利用計画アクションプラン	
(5) やむを得ず帰町をしばらく見合わせる町民への支援	
(6) 基本理念	
3. 檜葉町の保健・福祉を取り巻く環境と課題	11
(1) 人口等の現状と見込み	
①人口・世帯数の推移	
②将来の人口	
③出生の状況	
④死亡の状況	
⑤婚姻の状況	
⑥児童数の状況	
⑦高齢者数・介護認定の状況	
⑧障がい者・障がい児の状況	
⑨国民健康保険医療費の状況	
(2) 町民アンケートからみる保健・福祉に関する状況	23
①高齢者関連	
②子ども・子育て関係	
③障がい者	
④健康について	
4. 計画策定にあたって	35
(1) 計画の組織図	
(2) 計画策定の経過	

1. 保健・福祉ビジョンの概要

(1) 概 要

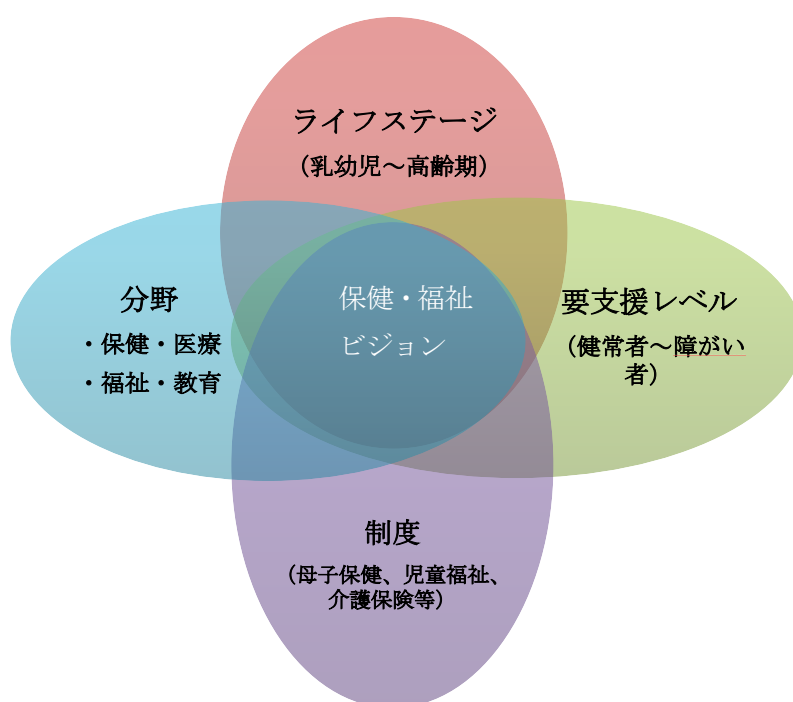
急速な少子化・高齢化の進展、地域コミュニティや家庭におけるつながりの希薄化、長い期間にわたる経済の低迷など、社会経済環境の変化によって、生活上の支援が必要となる人が増えてきています。

これまでの福祉は、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉といった対象者別の「福祉の枠組み」ごとに対応してきました。しかしながら、福祉サービスはそれぞれの分野で完結するわけではなく、支援が必要な人に対しては、保健、福祉、医療のさまざまな分野にわたって総合的な支援が必要であると考えられます。

また、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いておりましたが、帰町の準備が始まっているところです。そのため、新しい生活を総合的に支援するような保健、福祉、医療の多様なサービスの提供が必要となっています。

そこで、それぞれの範囲、分野で策定する保健及び福祉に関する計画を総合的かつ計画的に進めるために、それぞれの対象者に該当する計画は、策定年度である今年度に策定し、すべての町民の保健福祉に関連する課題と現状、目標に関することは保健・福祉ビジョンとして整理しました。

また、各計画は、震災後、時間の経過とともに目まぐるしく状況が変化するため、当面の間、その実情や状況に応じた柔軟な対応、対策を取ることができるよう、適宜、計画の変更や見直しを行っていきます。



各時期、心身機能レベルにおける対応

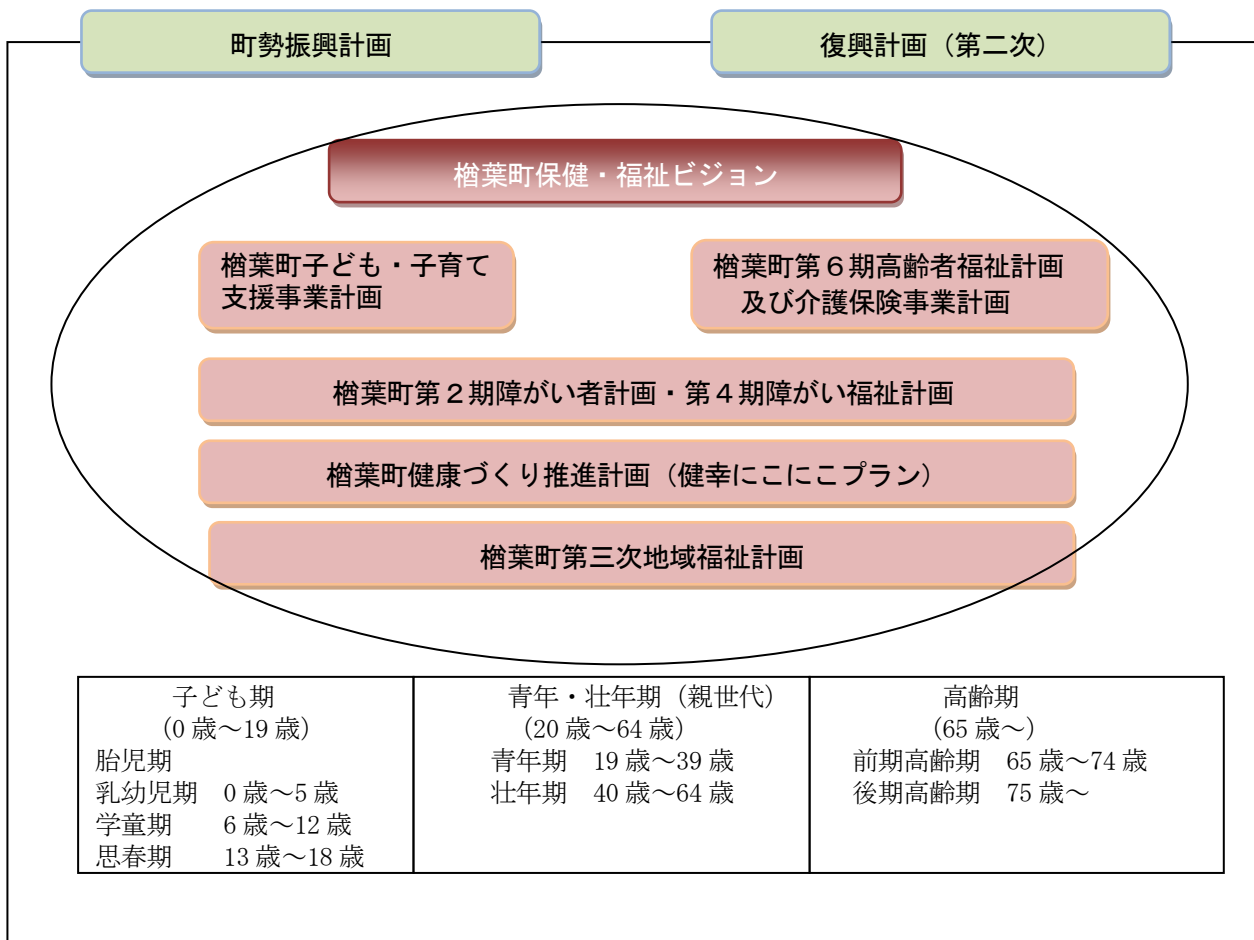


(2) 計画の位置づけ

計画の策定にあたっては、町の最上位計画としてまちづくりの方向を示す「町勢振興計画」と東日本大震災による原子力事故からの「復興計画（第二次）」に沿った形で、保健福祉部門の基本施策を示した下記の地域福祉分野の計画として、関連する計画と調整を図りながら策定しました。

- 檜葉町子ども・子育て支援事業計画（平成 27 年度～平成 31 年度）
- 第 6 期檜葉町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（平成 27 年度～平成 29 年度）
- 檜葉町第 2 期障がい者計画・（平成 27 年度～平成 32 年度）
第 4 期障がい福祉計画（平成 27 年度～平成 29 年度）
- 檜葉町健康づくり推進計画（健幸にこにこプラン）（平成 27 年度～平成 31 年度）
- 檜葉町第三次地域保健福祉計画（平成 27 年度～平成 31 年度）

<各計画の位置づけ>



2. 保健福祉の方向性

(1) 避難後の町民の生活環境や家族関係などの状況

① 避難状況

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いておりますが、その大半は県内に避難しており、71.9%がいわき市に避難しています。

【避難状況】(平成26年10月31日現在)

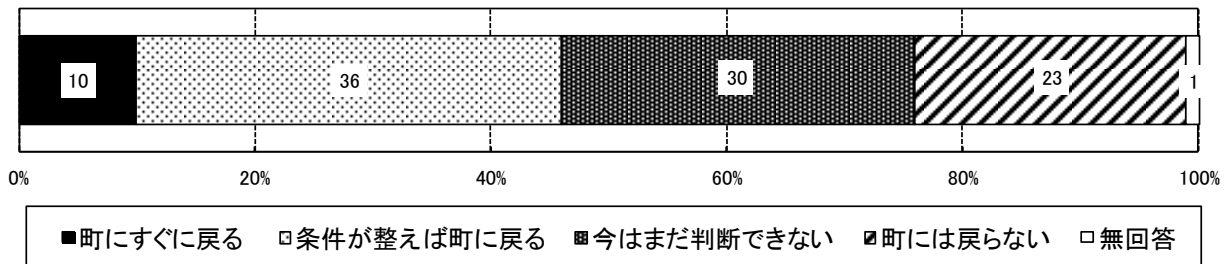
檀葉町人口 7,461名 所在確認済 7,454名 (99.9%)	内 訳
県内避難 6,436名 (86.3%)	いわき市 5,785名 会津美里町 229名 郡山市 131名 会津若松市 77名 その他 214名
県外避難 1,025名 (13.7%) →全国30都道府県に避難中	茨城県 224名 東京都 153名 千葉県 132名 埼玉県 131名 その他 385名

(資料) 檀葉町復興計画

② 帰還の住民の意向

平成26年10月に復興庁、福島県、檀葉町が、全世帯の代表者に対して調査した結果からは、「町にすぐ戻る(10%)」「条件が整えば町に戻る(36%)」「今は判断できない(30%)」「町には戻らない(23%)」でした。いつ頃になるかはわかりませんが、半数程度が戻るものと想定されます。

【帰還の意向】



(資料) 檀葉町復興計画

③避難後の町民の生活環境や家族関係などの状況

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いておりますが、避難後の町民の生活環境や家族関係については、以下のような変化がみられ、課題が生じています。

住民がまとまって避難しておらず、県内外に分散しています。居住形態は、借り上げ住宅、仮設住宅、友人や親せき宅などさまざまであり、同居していた家族が世帯内で分離して居住している場合も生じています。また、仮設住宅には、高齢者世代が多い傾向にあり、借上住宅には、20歳～60歳の世代が多い傾向にあることから、避難場所によって世帯構成や年齢構成にも違いが生じています。

このような避難生活にともなって、家族、親族、友人、職場、地域での人間関係、コミュニティ、世代間交流などの関係が壊れた現状もあります。そのため、役割の喪失、失業、高齢者の扶養などの問題や、居住環境や支援の格差、避難先住民との関係構築等の課題も生じています。

このような居住空間・環境の変化、生活スタイルの変化により、土を自由にいじれない、日中やることがない、今までのつながりがないために地域から孤立することなどによって、こころとからだの両面から健康問題が生じています。

具体的には、身体機能低下、生活習慣病の増加と悪化（高血圧、生活不活発病（筋力の低下、神経系の低下、肥満、糖尿病等））、認知症の増加、情緒不安定、意欲の低下という症状が現れています。また、放射線被ばくに対する健康不安、将来や生活への不安などによる、抑うつ、不眠、過度の飲酒がみられます。

また、子供たちが自由に外で遊べない、運動ができないため、運動不足による肥満などが懸念されます。

④保健・医療・福祉・教育・スポーツ関係施設の状況

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いている中で、町内における保健・医療・福祉・教育・スポーツ関係施設は、利用できない状況にあります。そのため、避難先であるいわき出張所を中心とした地域において、サービス等の提供を再開しています。

「サポートセンター空の家」では、保健福祉会館で実施していた事業、子育て相談や児童館の機能を担っています。「あおぞらこども園」「小学校」「中学校」は、同じ敷地に仮設校舎にて再開しています。障がい者関連の施設では、生活訓練と地域生活支援センターは休止中ですが、他の施設はいわき市で再開しています。

南小学校及びこども園は改修工事が終了しており、中学校は平成26年度に改築、完成予定となっています。

【福祉関係施設（町関係施設）の状況】

施設名	管轄	震災前の主に活用していた事業等	現在の事業実施場所
やまゆり荘	住民福祉課	・介護保険デイサービス(社会福祉協議会運営)	避難先サービス事業所
保健福祉会館	住民福祉課	・社会福祉協議会事務所・会館の管理運営 ・地域包括支援センター ・ボランティアセンター ・地域ファミリーサポートセンター ・保健センター ・介護予防教室、介護保険外デイサービス ・各種保健福祉事業 高年齢者の生きがいサークル・各種研修、会議 保健・福祉関係の相談 総合健診 ・慰霊祭 ・健康祭り ・入浴サービス 給食サービス	サポートセンター空の家 サポートセンター空の家 サポートセンター空の家 サポートセンターならば サポートセンター空の家 サポートセンター空の家 サポートセンターならば
メディカルセンター	住民福祉課	・整形外科診療 リハビリ(日本サッカー協会)	ホールボディ検査に活用
こばなホーム ((旧)国保ならば 診療所)	住民福祉課	・障がい者サポートセンター ・障がい者支援事業所 ・身体、知的障がい者グループホーム	友愛会
りんべるハウス ((旧)憩いの家)	住民福祉課	・障がい者(3障がい)作業所 ※希望の杜福祉会運営	いわき市内
各地区集会所	財産管理課	・地域ミニデイサービス ・地区健康相談 ・健康教室	仮設住宅集会所

【福祉関係施設（民間等運営施設）の状況】

施設名	管轄	震災前の主に活用していた事業等	現在の事業実施場所
特別養護老人ホーム リリー園 (公設民営)	社会福祉法人広葉会	・介護保険入所施設 (入所 90 床 ショートステイ 10 床) ・訪問介護ステーション	
老人保健介護施設 檜葉ときわ苑	医療法人ときわ会	・介護保険入所施設(入所 100 床)	仮設老人保健介護施設
ゆずの里	有限会社 クリエイト	・高齢者デイサービス (介護保険サービス事業者)	
福祉作業所 ふたばの里 (作業所取り壊し)	希望の杜福祉会	・精神障がい者作業所 (豆腐等づくり及び販売)	いわき市内の作業所
地域活動支援センター 結いの里 相談支援事業所 結いの里	希望の杜福祉会	・障がいの者の相談、生活支援 (双葉郡の町村から委託を受けている)	相談業務のみ 平沼ノ内諏訪原 で実施
憩いの家	希望の杜福祉会	・精神障がい者グループホーム (女子のみ)	上荒川グループ ホーム (男女混合 9 床)
J ヴィレッジフィットネスクラブ	日本フットボール協会	・保健事業委託 (温水プール等を活用した運動教室)	仮設フィットネスクラブ

【教育関係施設（町関係施設）の状況】

施設名	管轄	震災前の主に活用していた事業等	現在の事業実施場所
公立小学校 南小学校	教育委員会	・学校教育	仮設学校
北小学校	教育委員会	・学校教育	仮設学校
公立中学校	教育委員会	・学校教育	仮設学校
あおぞらこども園 (認定こども園)	こども園	・保育、幼児教育	仮設こども園
子育て支援センター	こども園	・一時保育、子育て広場 (あそびと交流) ・子育てに関する相談、学習(各種教室) ・乳幼児健診	仮設こども園 サポートセンター空の家
公民館	教育委員会	・社会教育、生涯学習、生涯学習ボラン ティア ・体育協会事務局	谷川瀬分室
コミュニティセンター	教育委員会	・教育委員会事務局 歴史資料館 ・各種事業・会議等 保健事業における調理実習 配食サービス 敬老会	谷川瀬分室 サポートセンター空の家 ならは振興公社 明星大学
体育館	教育委員会	・ならはスポーツクラブ事務所	谷川瀬分室
野球場 陸上競技場	教育委員会	・競技スポーツ	
(旧)南幼稚園	住民福祉課	・南児童館	サポートセンター空の家
(旧)南保育所	教育委員会	・公民館分室 ・シルバー人材センター	(シルバーセンターは広野 町で活動)
(旧)北保育所	住民福祉課	・北児童館	サポートセンター空の家

(2) 帰町にあたってのまちづくりに必要なこと

帰町においては、日常生活が自立している高齢者が中心に帰町し、子供をもつ家庭の帰町は少なく、一気に超高齢化が進むことが予想されます。また、世帯分離が増加し、単身家族、高齢者世帯等の1世帯当たりの平均世帯人員が減少、各世帯が点在して居住し、以前のコミュニティ形成が成り立たない状況が懸念されます。

また、震災前のように、土いじりや自家栽培、海、山で採取したものを気軽に食べることが難しい状態が続くと思われます。

福祉の面では、高齢者が中心のまちとなることが予想されることから、今後、医療や介護が必要となる者が増えることが予想され、在宅医療や在宅福祉の需要の増加が見込まれます。また、恒常的に専門職（保健、福祉、医療関係）のマンパワーが不足し、保健、福祉、医療関係のサービス提供に支障が出ることを想定されます。これらの課題を解決していくためには、重点的に病気の予防、介護予防につとめるとともに、現在居住している地域やコミュニティにおいて相談や交流のできる場をつくることによって、居場所づくり、役割づくりが必要です。

さらに、地域における様々な問題や課題は、住民に最も身近な行政主体である町が地域住民をはじめ関係機関や関係団体等との協働のもと解決していきます。

そして、これからの檜葉町は、そこに暮らすだれもが、「ならば」でなら、いきいきと安心して暮らせる。「この町に住んでよかった。「ならば」でよかった。」と思えるような、健康で生きがいをもち、安心して暮らせる地域社会の実現を目指して、保健福祉を考えていく必要があります。

(3) 新たなコミュニティの構築

各保健・福祉計画では、次のような方向性で、計画の推進を図っていきます。

1. 全ての世代が自立し、安心して暮らせる共生型福祉を目指し、保健・福祉・医療の地域包括ケアサービスを展開していきます。
2. 日常的に、世代間が交流し、みんなが集えるような仕組みや場を作っていきます。そして、交流活動を通じて、心のふれあいと連帯意識を深め合う機会の増加を図ります。
3. 住民のだれもが人としての尊厳を持ち、障がいの有無や性別・年齢等にかかわらず、家庭や地域の中でそれぞれが生きがいと役割を持って、知縁や地縁によりお互いが助け合えるような仕組みやネットワークを作ります。
4. 震災前に実施していた保健福祉サービスをもとに、マンパワー不足や厳しい財政状況等、様々な条件を総合的に勘案しながら、実情に適した効率性、効果性、実効性のある事業展開を柔軟に図っていきます。また、町にある各施設等の社会資源を有機的に結び付け、有効に利活用していきます。

(4) 檜葉町土地利用計画アクションプラン

復興計画では、土地利用計画を具体化させ、檜葉町のみならず双葉郡・福島県の復興をけん引する施策を示し、その実現と推進に向けて進んでいくため、「檜葉町土地利用計画アクションプラン」をとりまとめました。

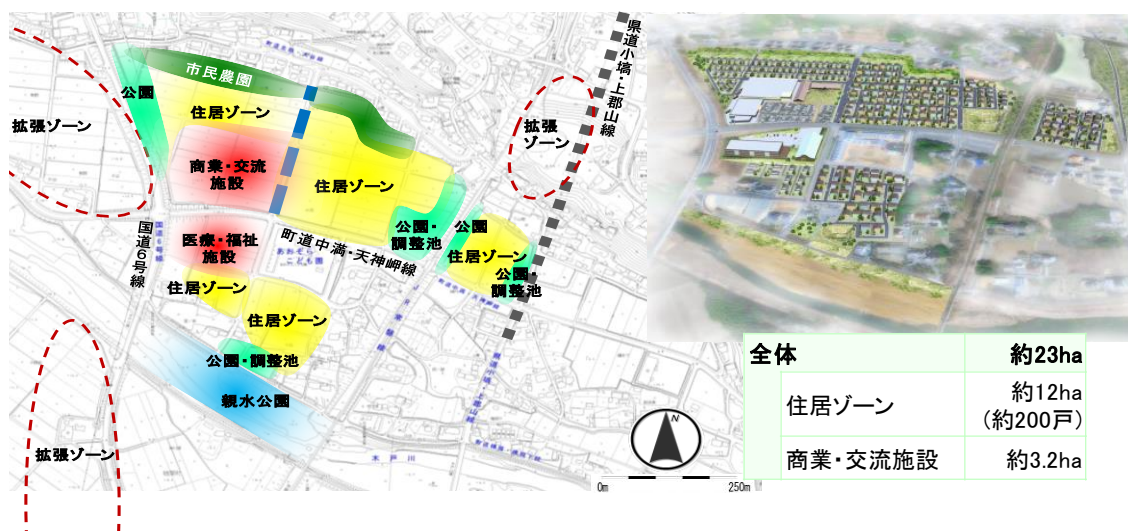
町民、町内事業者の暮らしの再生と新たな居住を促進するため双葉郡と共に歩む檜葉町の復興拠点の実現を目指し「コンパクトタウン」を整備します。

コンパクトタウンには、医療・福祉ゾーンを整備することとなっており、保健・福祉・医療サービスの拠点として充実し、利便性が高まることが期待されます。また、コンパクトタウンに隣接する区域のなかに、あおぞらこども園が立地しており、共生型福祉施設としての活用について検討が必要です。

新たな地域づくりやコミュニティをつくり、町民が分け隔てなく交流できる場づくり、居場所づくり、役割づくりをしていきます。

このように、保健・福祉に関する施設・機能の集積により、帰町後の町民が、いつでも気軽にサービスを利用できるような生活環境を構築していきます。

【コンパクトタウン】



(5) やむを得ず帰町をしばらく見合わせる町民への支援

放射線の影響に対する不安、仕事や学校の都合等により、全ての町民が帰町判断後すぐに帰町するとは限りません。様々な事情からやむを得ず帰町をしばらく見合わせる町民に対しても、原発避難者特例法（東日本大震災における原子力発電所の事故による災害に対処するための避難住民に係る事務処理の特例及び住所移転者に係る措置に関する法律）の適用の継続や避難先で円滑に保健、福祉、医療のサービスが受けられるよう、避難先市町村との連携を図ります。

また、町民の帰町意欲を継続させるため、帰町後、住民同士が互いに助け合いながら暮らしていくために、世代間交流及び故郷である檜葉町への想いを継承させる取組みを推進していきます。

(6) 基本理念

急速な少子化・高齢化の進展、地域コミュニティや家庭におけるつながりの希薄化、長い期間にわたる経済の低迷などの社会経済環境の変化に対応した保健福祉に関する取り組みが求められています。

また、東日本大震災による原子力災害のため全町避難からの帰町を見据えて、これからの新しい檜葉町に暮らしてよかったと思うことができるような、地域社会をつくっていくことが必要とされています。

このような考えのもと、住み慣れた地域において安心して暮らせるようなまちづくりを目指し、各計画ではそれぞれに基本理念を掲げています。

健康で生きがいをもち、安心して暮らせるまち “ならば”

(第6期檜葉町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画)

すべての子どもが元気に輝き、親・地域が育つ子育て応援のまち

(檜葉町子ども・子育て支援事業計画)

みんなが(障がいのある人もない人も)生きがいをもち

安心して暮らせるまち “ならば”

(檜葉町第2期障がい者計画・第4期障がい福祉計画)

みんなが生きがいをもち、心身共に健康に暮らすことができるまち
～健やかに産み、健やかに育ち、健やかに老いる～

檜葉町にこにこ健幸プラン (檜葉町健康づくり推進計画)

新たなスタートにあたり、みんなが安心して暮らせるまち

(檜葉町地域福祉計画)

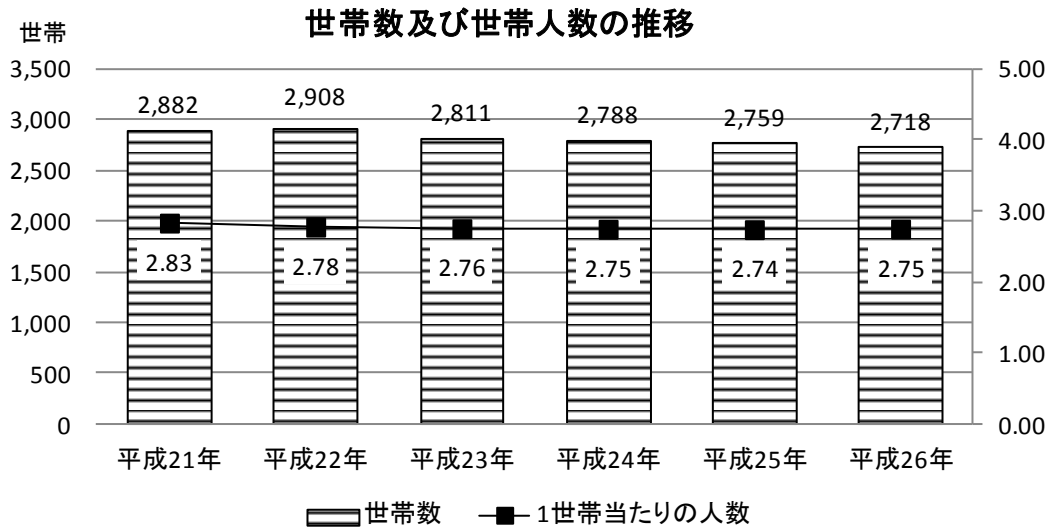
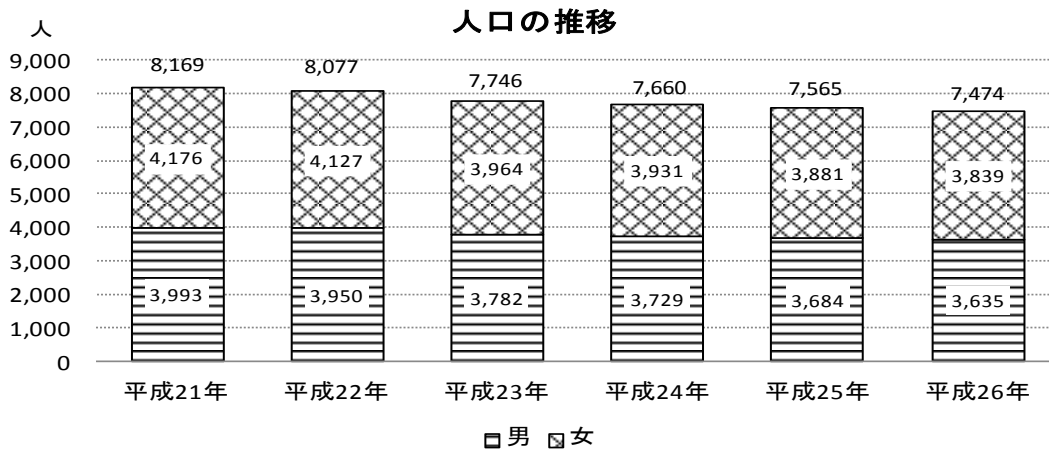
3. 檜葉町の保健・福祉を取り巻く環境と課題

(1) 人口等の現状と見込み

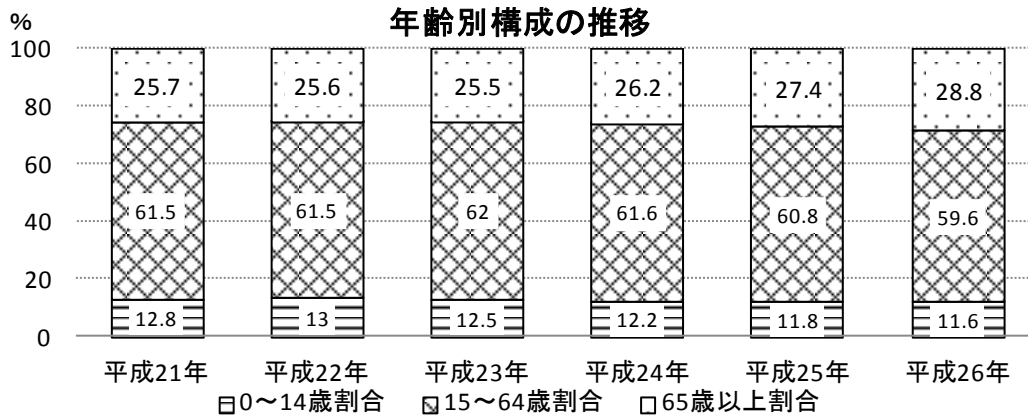
①人口・世帯数の推移

檜葉町の人口は、年々減少しています。平成23年以降は東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いていますが、減少傾向には大きな変化はみられません。

世帯数も同様に減少傾向にあります。一方で、1世帯あたりの人数は、核家族化により横ばいに推移しています。また、全町避難によって、家族がばらばらに暮らしていることもみられ、実際には1世帯あたりの人数は減少しているものと推測されます。



(資料) 住民基本台帳 (各年 10月1日現在)

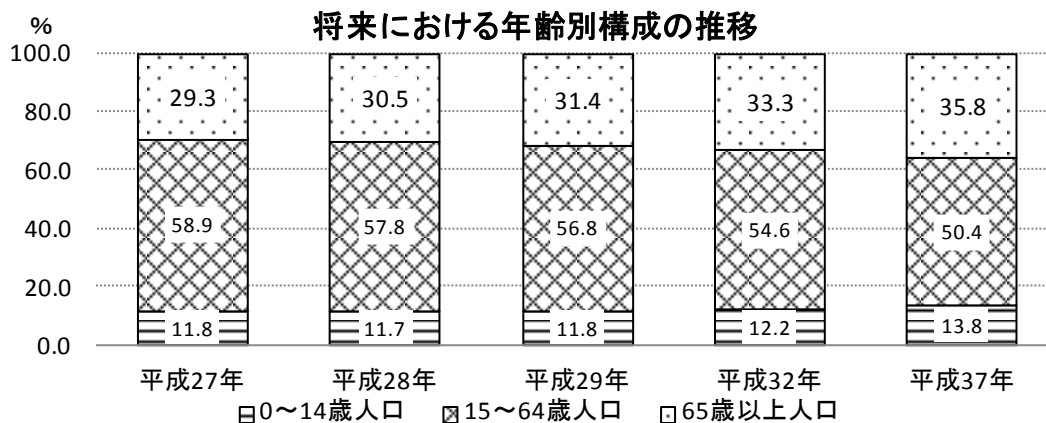
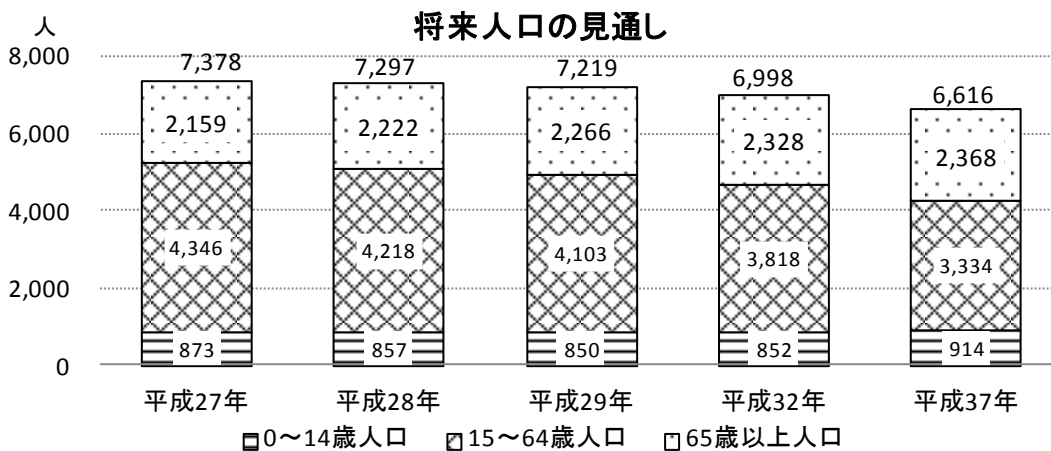


(資料) 住民基本台帳 (各年 10 月 1 日現在)

②将来の人口

将来の人口は、減少傾向が続くと見込まれますが、平成 32 年から平成 37 年にかけては 14 歳以下の人口が増加に転じ、子どもの人口割合が増加することが見込まれます。また、平成 28 年以降は高齢化率が 30%を超えることが見込まれます。

ただし、帰町に関するアンケートの結果から、高齢者が帰町するケースが多くなると想定され、帰町後は高齢化率が当該推計値より高くなることが想定されます。

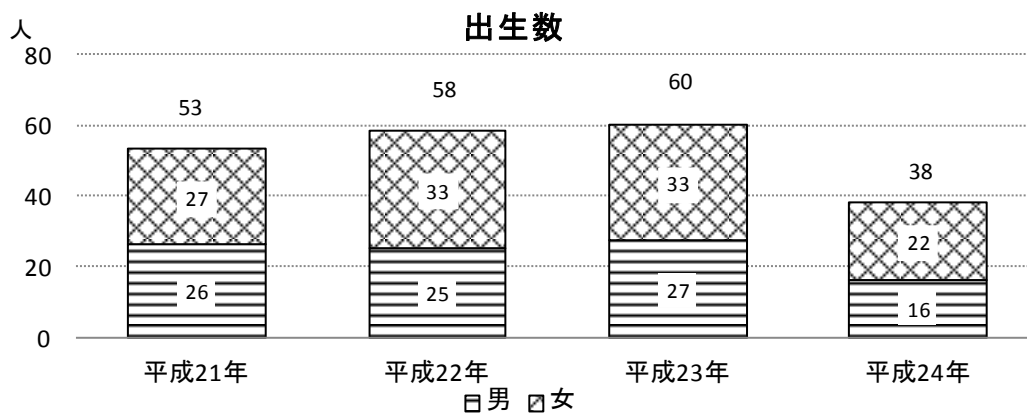


(資料) 檜葉町推計 (※人口の数値は現住人口を利用)

③出生の状況

檜葉町の出生数及び出生率は、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況となった平成24年に急減しています。

合計特殊出生率は、国、福島県を上回っていますが、低下傾向にあります。



(資料) 福島県保健統計の概況

合計特殊出生率の状況

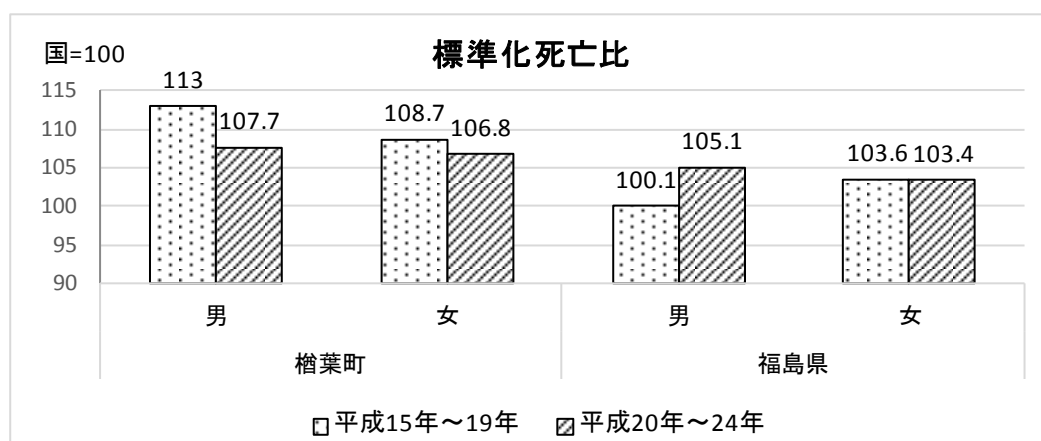
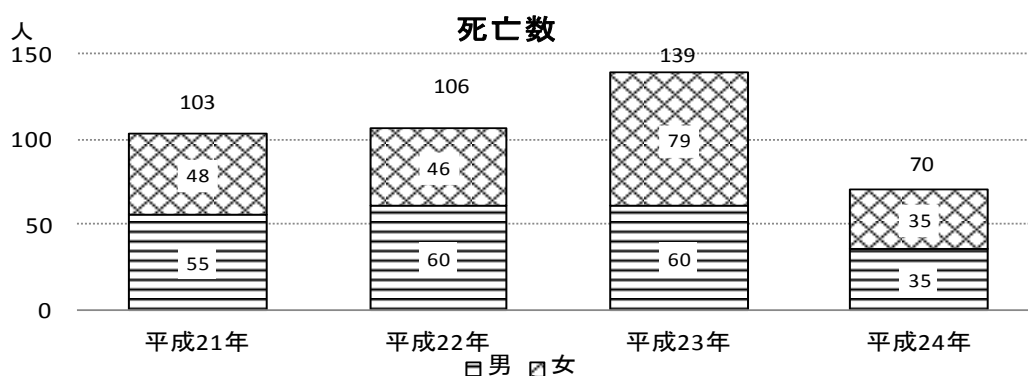
	檜葉町	福島県	国
平成21年	1.48	1.49	1.37
平成22年	1.48	1.52	1.39
平成23年	1.48	1.48	1.39
平成24年	1.48	1.41	1.41

(資料) 福島県保健統計の概況

④死亡状況

檜葉町の死亡数は東日本大震災により、平成23年に急増しています。標準化死亡比（国＝100）は、従前から国、福島県を上回っています。死因のなかで特に国を上回っているのは、脳血管疾患（男186.5、女134.3）、腎不全（男152.5、女158.2）、肺炎（男132.5、女106.7）、心疾患（高血圧性疾患を除く）（男116.5、女117.5）です。

平均寿命（平成22年）は男77.6歳、女86.2歳であり、男性は国、福島県を下回っており、女性は国を下回っています。



檜葉町における原因別標準化死亡比（平成20年～24年）（国＝100）

	男性	女性
悪性新生物	103.6	92.8
心疾患（高血圧性疾患を除く）	116.5	117.5
脳血管疾患	186.5	134.3
肺炎	132.5	106.7
腎不全	152.5	158.2

平均寿命（歳）

	男性	女性
檜葉町	77.6	86.2
福島県	78.84	86.05
国	79.59	86.35

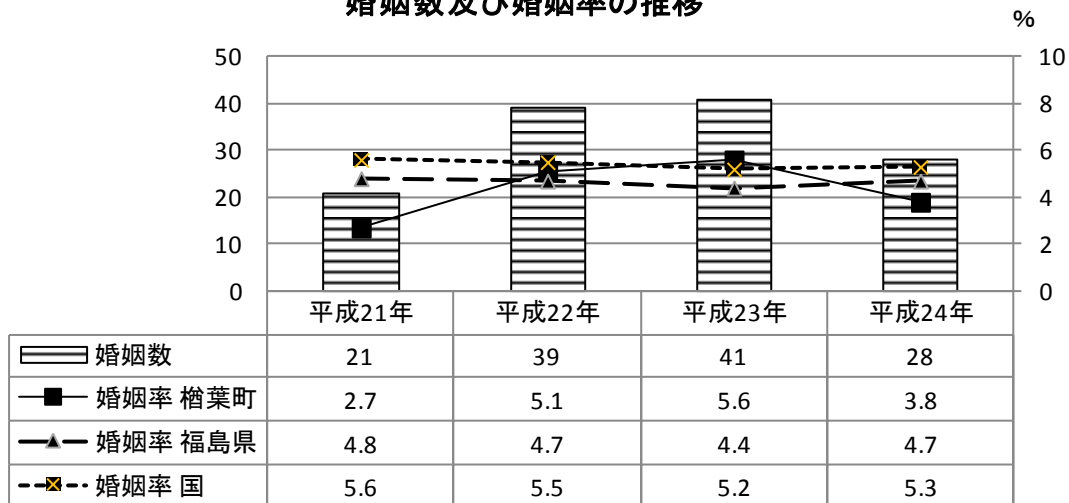
（資料）福島県保健統計の概況

⑤婚姻の状況

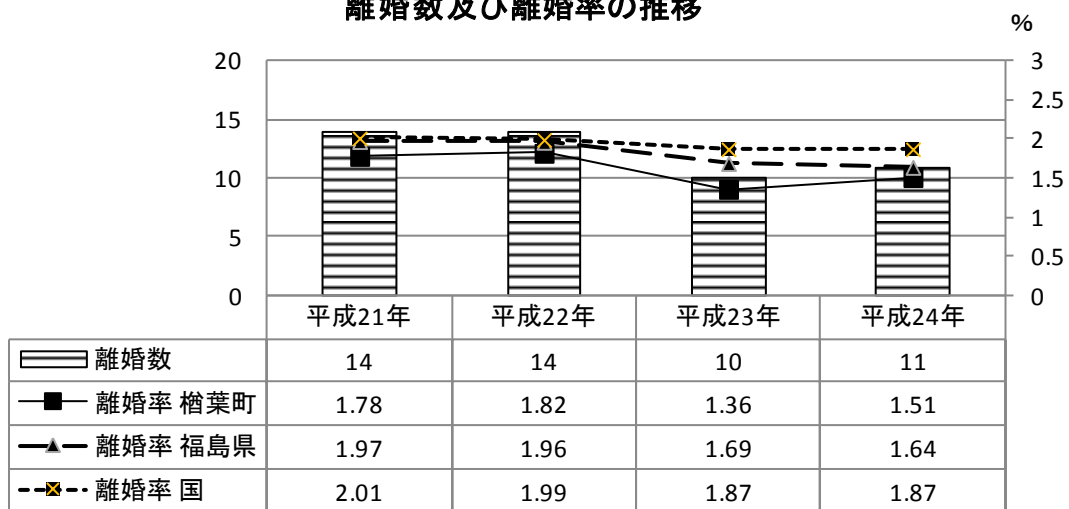
檜葉町の婚姻率は国、福島県を下回っていますが、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況となった平成24年に急減しています。

離婚率についても国、福島県を下回っていますが、平成24年に上昇しています。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難も原因と考えられます。

婚姻数及び婚姻率の推移



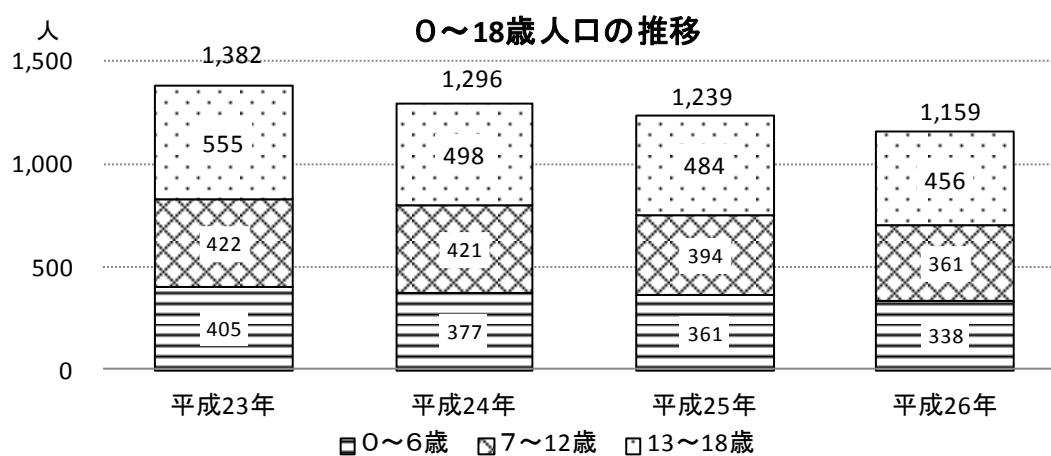
離婚数及び離婚率の推移



(資料) 福島県保健統計の概況

⑥児童数の状況

檜葉町の0～18歳人口は減少傾向にあり、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況となった後も、同様の傾向を示しています。



(資料) 住民基本台帳

※平成23年から25年は3月31日が基準日、平成26年は速報値につき、12月31日が基準日

なお、認定こども園、小中学校の仮設校舎をいわき明星大学内に設置し、平成25年1月に開校しています。仮設校舎に通う児童は、震災前の2割にとどまり、他の児童については、避難先市町村の学校に通学しています。

震災前後の認定こども園、小中学校への通学状況 (人)

	園児数	小学生数	中学生数	合計
震災前 (平成22年度末)	251人	432人	254人	686人
仮設園舎、校舎 (平成26年4月)	30人	87人	73人	160人

(資料) 檜葉町復興計画

⑦高齢者数・介護認定の状況

高齢者（65歳以上）の人口は、平成23年までは減少していましたが、平成24年以降増加傾向にあります。高齢者の人口に占める割合は、平成21年の25.7%から、平成26年には28.6%と増加しています。

後期高齢者（75歳以上）の人口も同様の傾向にあり、人口に占める割合は平成26年で15.6%を占めています。

介護保険の第2号被保険者となる40～64歳の人口は減少傾向にあります。人口に占める割合は平成26年で34.6%です。第1号被保険者と合わせると、人口の63.2%となります。

介護保険被保険者人口の状況

（各年10月1日現在）

	合計（人）			割合（%）		
	40～64歳	65歳以上	75歳以上	40～64歳	65歳以上	75歳以上
平成21年	2,831	2,096	1,156	34.7%	25.7%	14.2%
平成22年	2,808	2,065	1,148	34.8%	25.6%	14.2%
平成23年	2,776	1,979	1,131	35.8%	25.5%	14.6%
平成24年	2,753	2,005	1,138	35.9%	26.2%	14.9%
平成25年	2,678	2,072	1,154	35.4%	27.4%	15.3%
平成26年	2,589	2,141	1,172	34.6%	28.6%	15.6%
	男（人）			女（人）		
	40～64歳	65歳以上	75歳以上	40～64歳	65歳以上	75歳以上
平成26年	1,478	861	395	1,353	1,235	761
平成27年	1,461	841	394	1,347	1,224	754
平成28年	1,441	812	399	1,335	1,167	732
平成29年	1,434	829	408	1,319	1,176	730
平成32年	1,401	867	422	1,277	1,205	732
平成37年	1,344	902	424	1,245	1,239	748

（資料）住民基本台帳

介護保険認定者は、年々増加しています。特に後期高齢者の増加人数が著しい状況にあります。認定率をみると平成26年には32.9%に達しています。

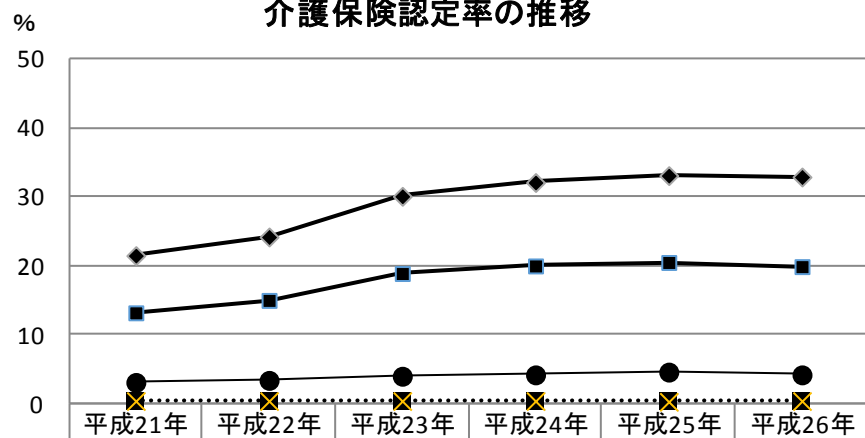
介護保険認定者の状況
(介護保険事業状況報告各年3月分から)

(単位：人)

		平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
第1号被保険者		277	309	374	401	424	427
	要支援	37	45	81	104	92	81
	要介護	240	264	293	297	332	346
前期高齢者	要支援	29	31	34	36	42	41
	要介護	2	4	8	10	12	10
後期高齢者	要支援	27	27	26	26	30	31
	要介護	248	278	340	365	382	386
第2号被保険者	要支援	35	41	73	94	80	71
	要介護	213	237	267	271	302	315
第2号被保険者		10	10	10	11	9	10
	要支援	1	1	1	1	2	2
	要介護	9	9	9	10	7	8

(資料) 介護保険係資料

介護保険認定率の推移



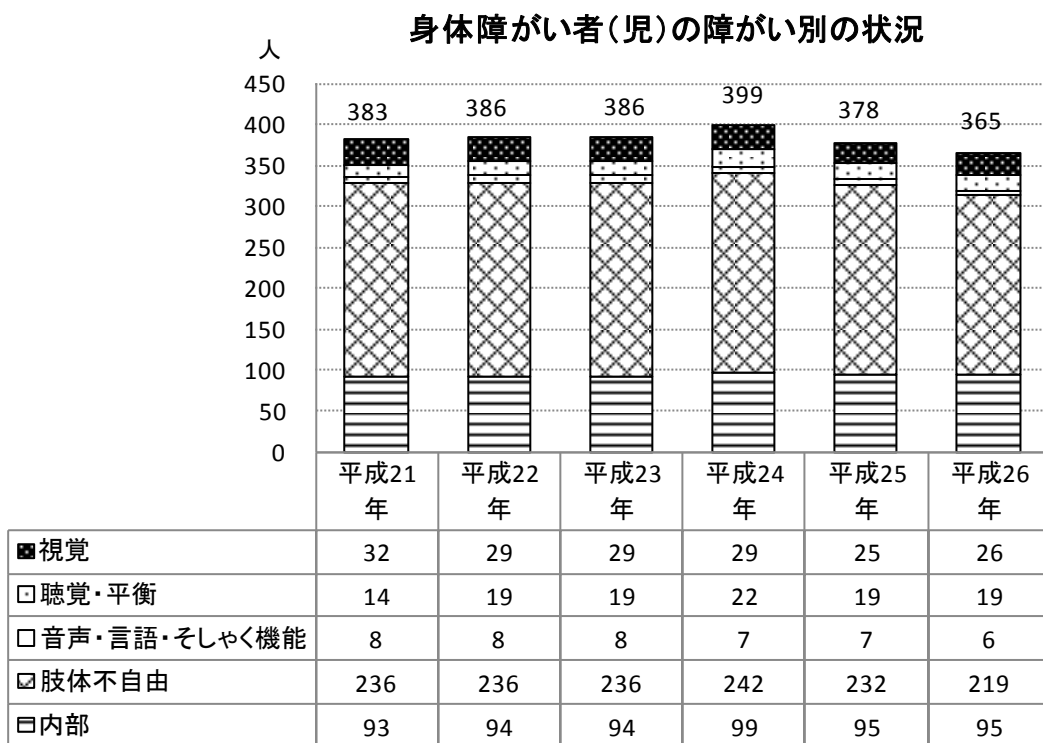
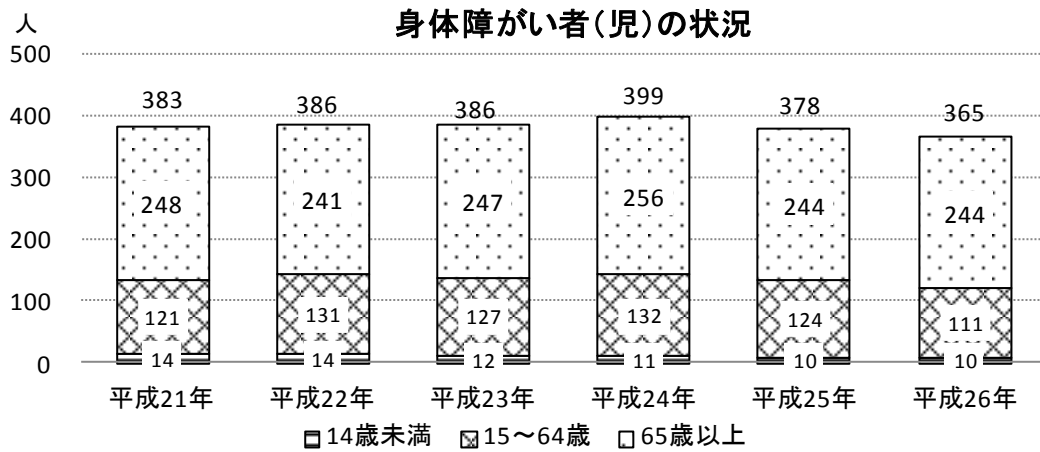
—■— 第1号被保険者	13.2	15	18.9	20	20.5	19.9
—●— 第1号被保険者 前期高齢者	3.1	3.4	4	4.2	4.6	4.2
—◆— 第1号被保険者 後期高齢者	21.5	24.2	30.1	32.1	33.1	32.9
…×… 第2号被保険者	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4

(資料) 介護保険係資料

⑧障がい者・障がい児の状況（障がい・子ども）

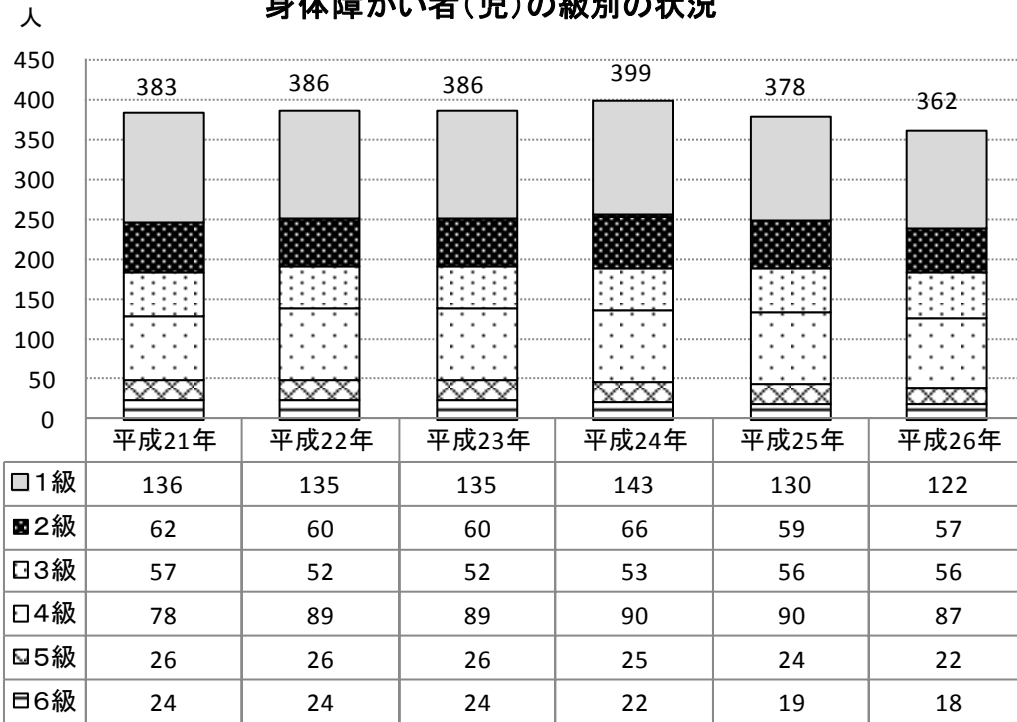
身体障がい者・障がい児については、平成25年度以降は大きく減少しています。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況が続いている中で、他の市町村へ転出しているものと想定されます。

一方で、知的障がい者、精神障がい者は増加しています。

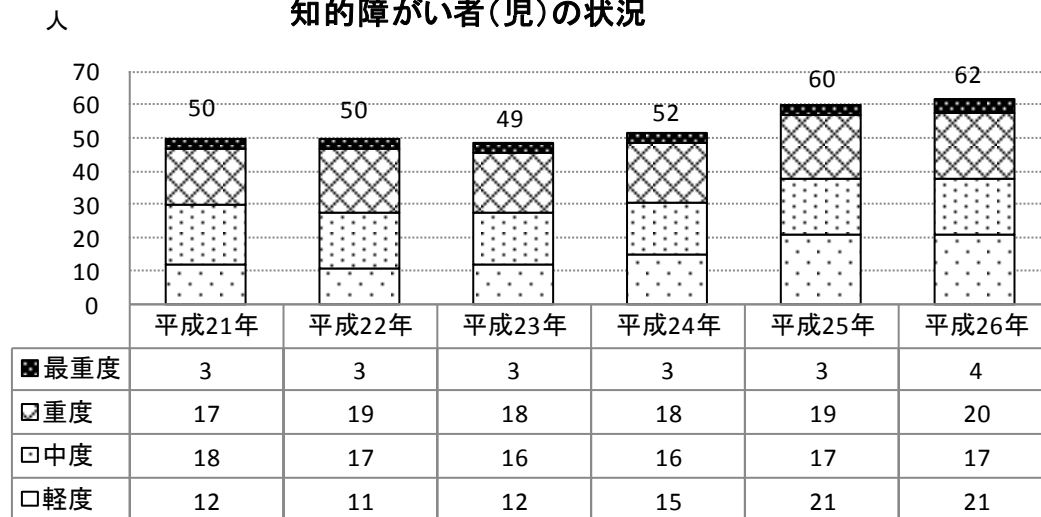


(資料) 社会福祉係資料

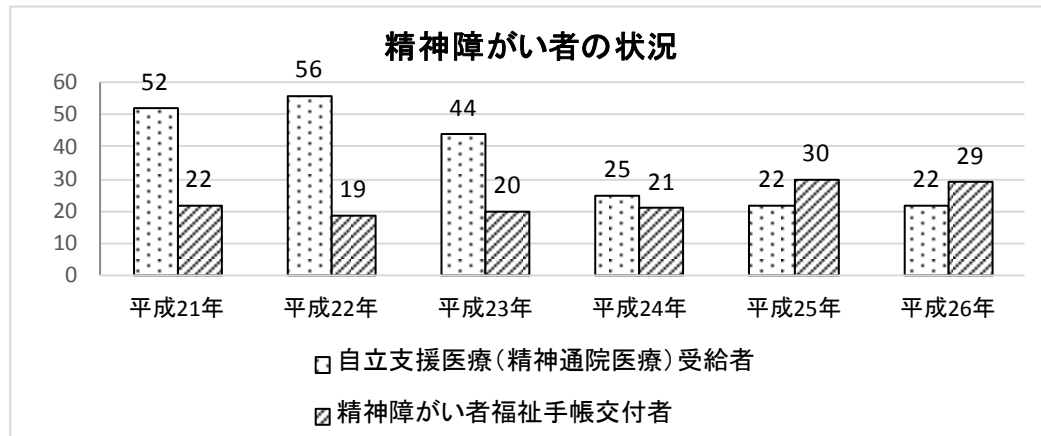
身体障がい者(児)の級別の状況



知的障がい者(児)の状況



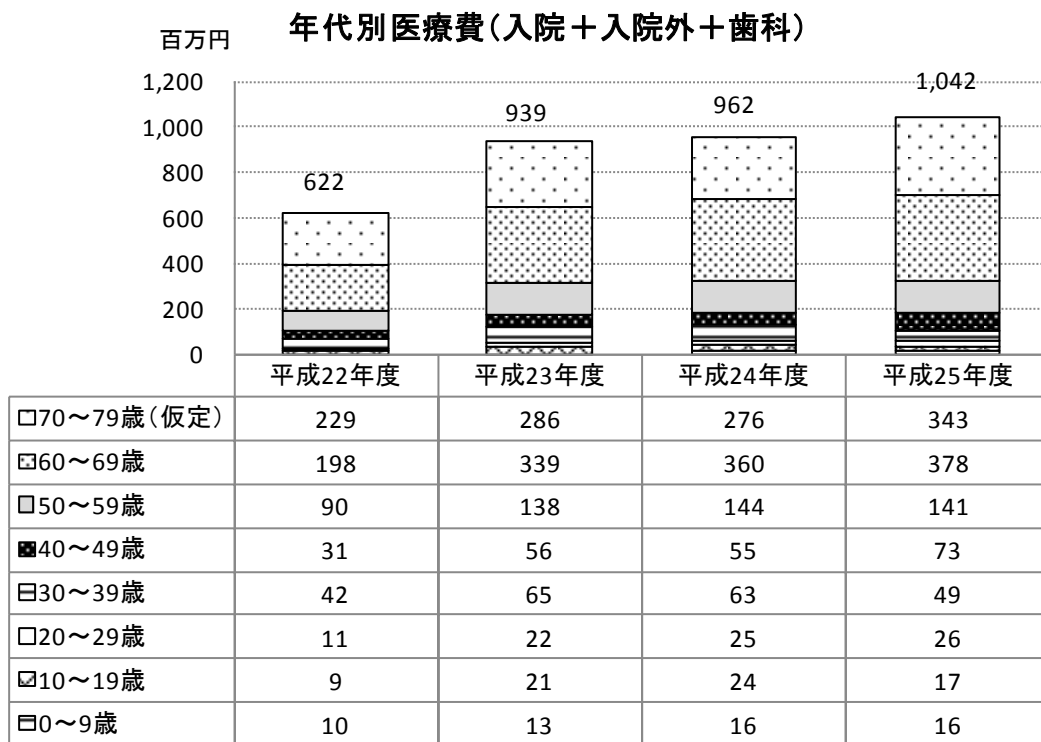
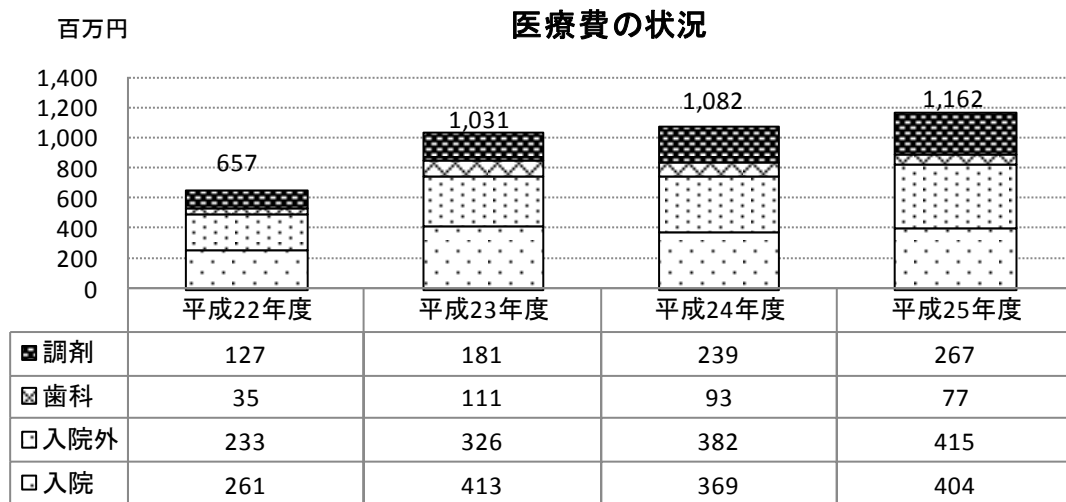
精神障がい者の状況



(資料) 社会福祉係資料

⑨国民健康保険医療費の状況

東日本大震災後の平成23年度以降、医療費が激増しています。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故のため全町避難の状況により、医療費の自己負担が免除されていること、いわき市等医療機関の整ったところへの避難が多く、医療機関にアクセスしやすいことも理由としてあげることができます。



(資料) 国保年金係資料

主な疾病について、件数・金額からみると、高血圧症、糖尿病については、件数・金額とも上位にあります。件数ベースでは、小児科、脂質異常症、関節疾患が多く、金額ベースでは、腎臓透析、統合失調症、うつ病が多くなっています。慢性疾患、精神疾患が上位であることがうかがえます。

件数・金額からみる上位疾病（平成25年度）

	疾病名	件数（1月あたり）	疾病名	医療費割合（%）
第1位	高血圧症	244	慢性腎不全 （透析あり）	9.5
第2位	糖尿病	216.8	糖尿病	8.3
第3位	小児科	141.3	統合失調症	6.6
第4位	脂質異常症	115.8	高血圧症	5.2
第5位	関節疾患	111	うつ病	3.7

(2) 町民アンケートからみる保健・福祉に関する状況

①高齢者関連

◎どのような生活を送りたいか（高齢者）

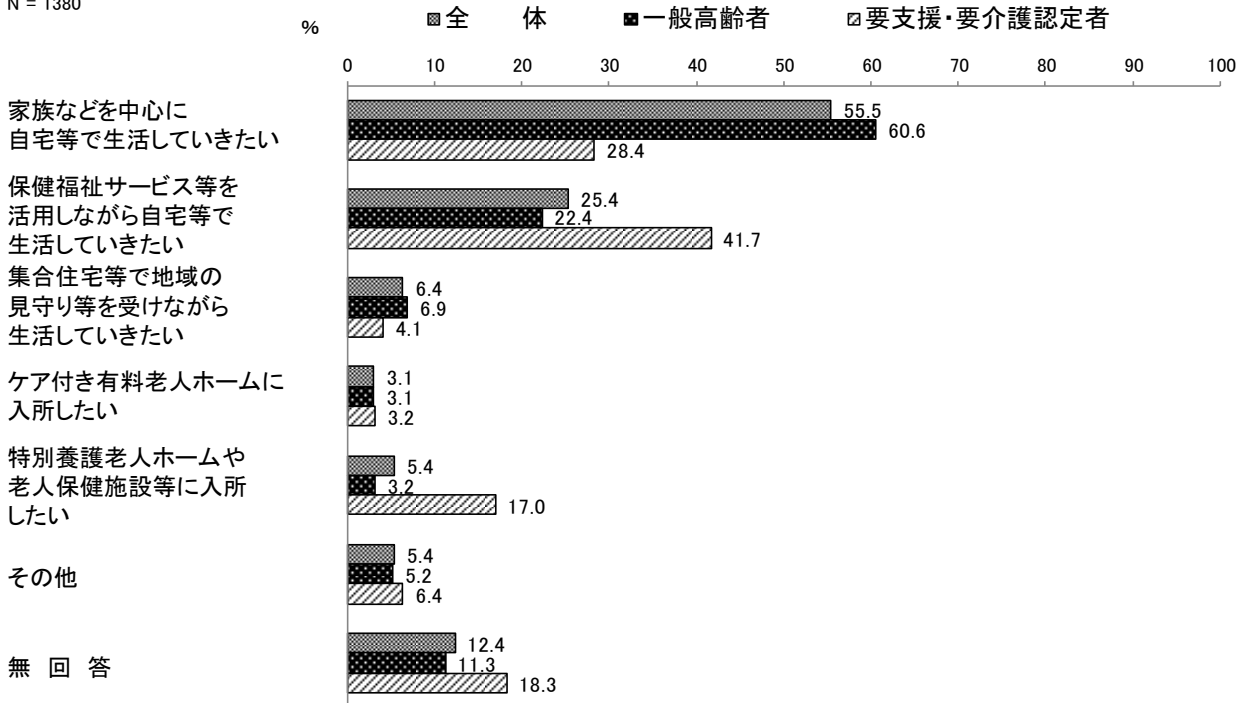
平成26年8月に65歳以上の全町民を対象に実施した「檜葉町高齢者日常生活圏域ニーズ調査」において、「どのような生活を希望するか」については、全体では「家族などを中心に自宅等で生活していきたい」が55.5%で最も多く、「保健福祉サービス等を活用しながら自宅等で生活していきたい」が25.4%、「集合住宅等で地域の見守り等を受けながら生活していきたい」が6.4%、「特別養護老人ホームや老人保健施設等に入所したい」が5.4%と続いています。

一般高齢者では「家族などを中心に自宅等で生活していきたい」が60.6%とやや多くなり、要支援・要介護認定者では「保健福祉サービス等を活用しながら自宅等で生活していきたい」が41.7%「特別養護老人ホームや老人保健施設等に入所したい」が17%と多くなっています。

どのような生活を希望するか

今後の生活についての希望〔%・複数回答〕

N = 1380

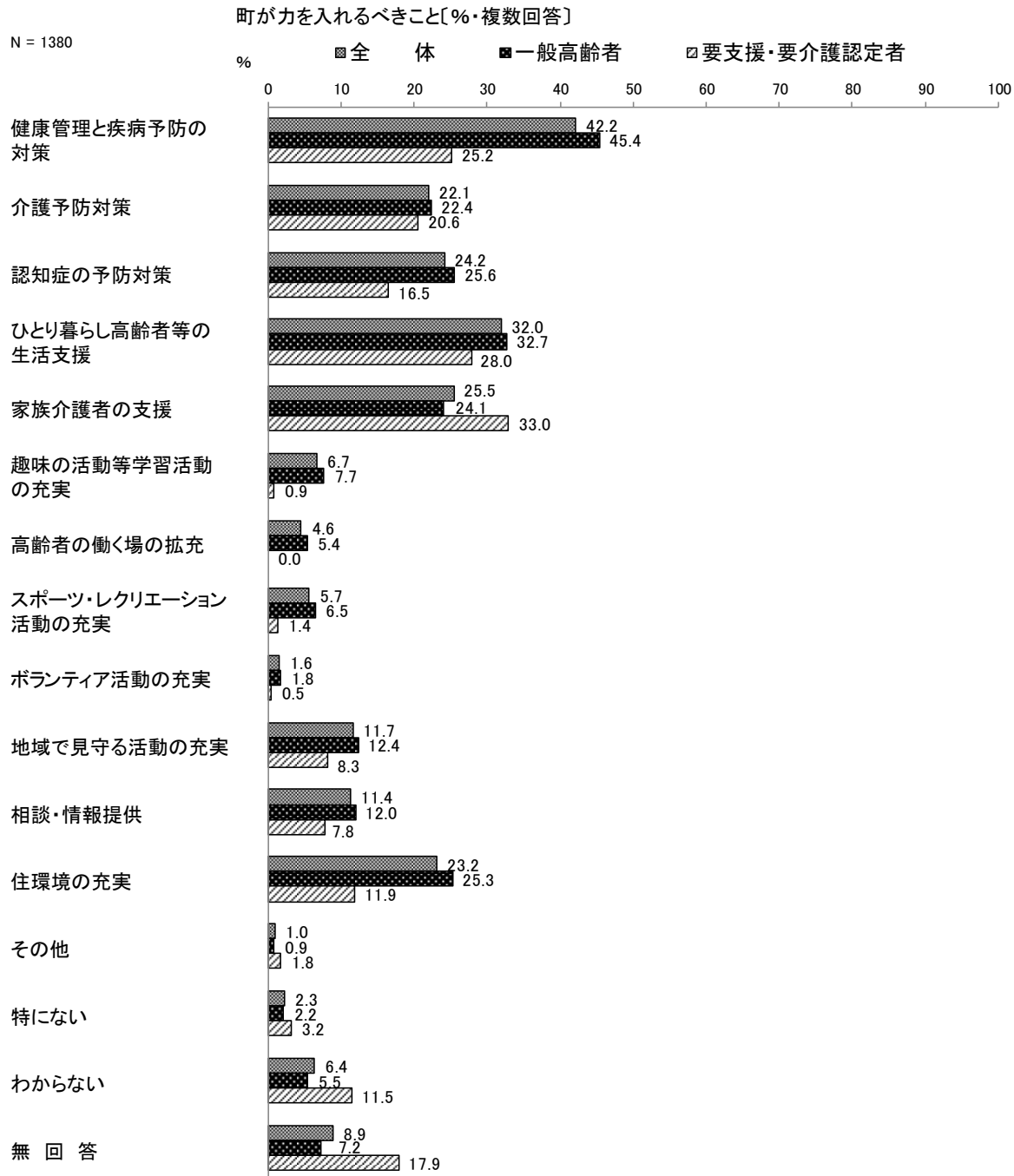


◎町の施策で力を入れてほしいこと（高齢者）

「高齢化社会に向けて町が力を入れるべきことは何か」については、全体では「健康管理と疾病予防の対策」が42.2%と最も多く、ついで「ひとり暮らし一般高齢者等の生活支援」が32.0%、「家族介護者の支援」が25.5%、「認知症の予防対策」が24.2%、「住環境の充実」23.2%、「介護予防策」が22.1%と続いています。

一般高齢者では「健康管理と疾病予防の対策」が45.4%、「住環境の充実」が25.3%とやや多くなっています。要支援・要介護認定者では「家族介護者の支援」が33.0%と最も多くなっています。

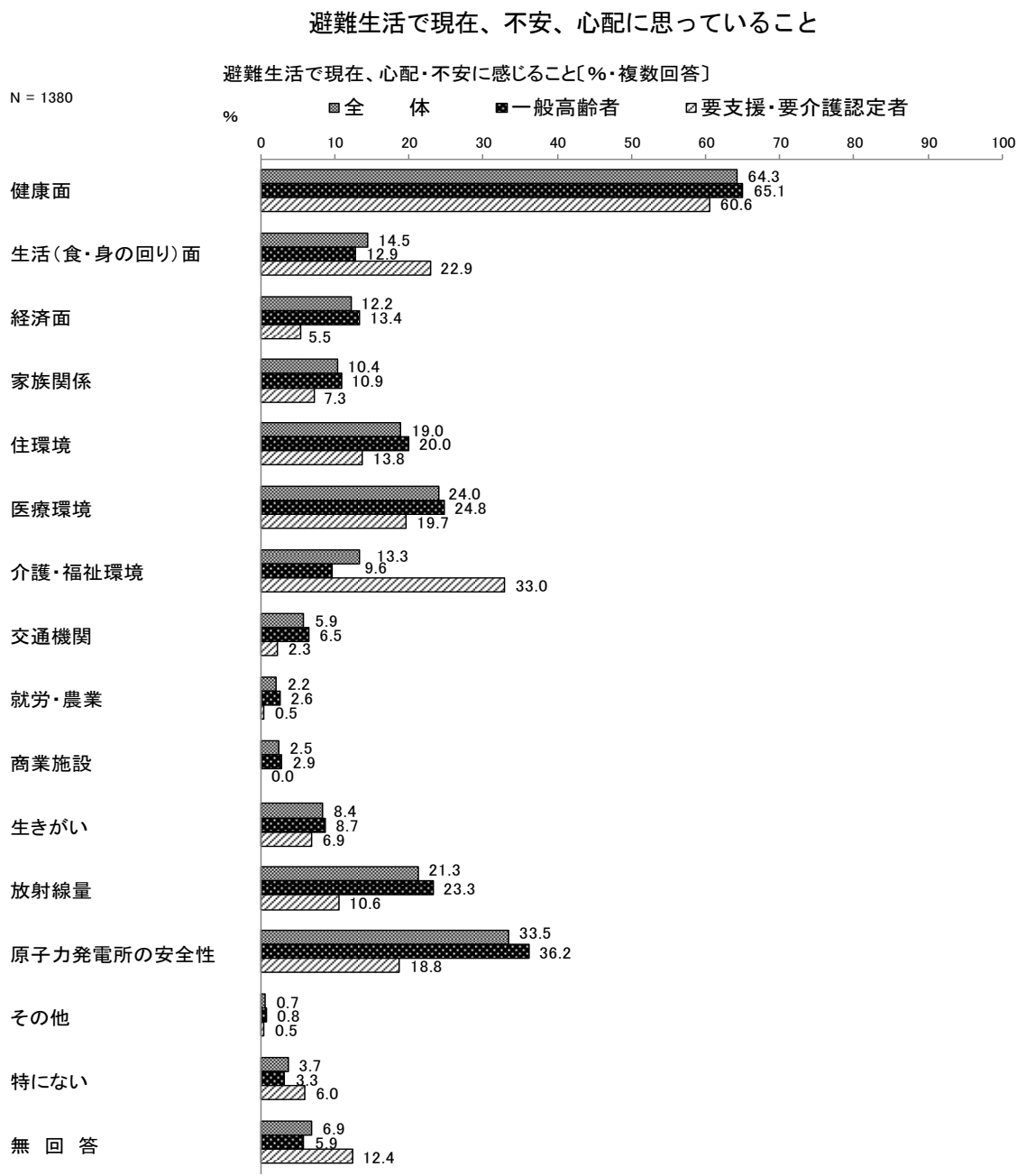
高齢化社会に向けて町が力を入れるべきこと



◎不安、心配に思っていること（高齢者）

「避難生活で心配、不安に感じていること」について尋ねた結果からは、全体では「健康面」が64.3%と最も多く、ついで「原子力発電所の安全性」が33.5%、「医療環境」が24.0%、「放射線量」が21.3%、「住環境」が19.0%、「生活（食・身の回り）面」が14.5%、「介護・福祉関係」が13.3%、「経済面」が12.2%、「家族関係」が10.4%と続いています。

一般高齢者では「原子力発電所の安全性」が36.2%、「放射線量」が23.3%とやや多く、要支援・要介護認定者では「介護・福祉環境」が33.0%、「生活（食・身の回り）面」が22.9%と多くなっています。



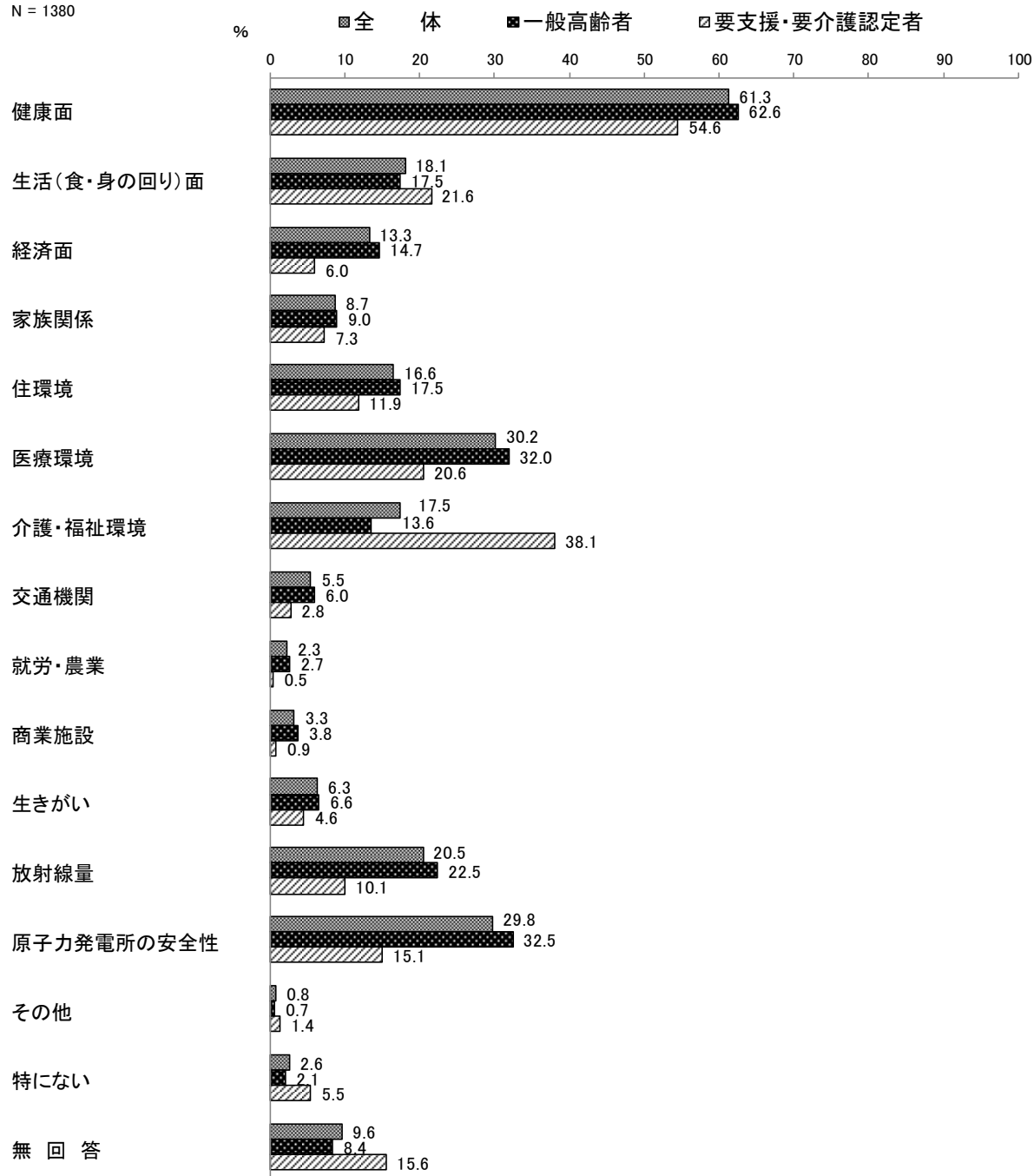
「今後、心配・不安に感じること」については、全体では「健康面」が61.3%と最も多く、ついで「医療環境」が30.2%、「原子力発電所の安全性」が29.8%、「放射線量」が20.5%、「生活（食・身の回り）面」が18.1%、「介護・福祉環境」が17.5%、「住環境」が16.6%、「経済面」が13.3%と続いています。

一般高齢者では「原子力の安全性」が32.5%、「放射線量」が22.5%、「医療環境」が32.0%でやや多くなっています。要支援・要介護認定者では「介護・福祉環境」が38.1%と多くなっています。

今後、心配・不安に感じること

今後、心配・不安に感じること〔%・複数回答〕

N = 1380

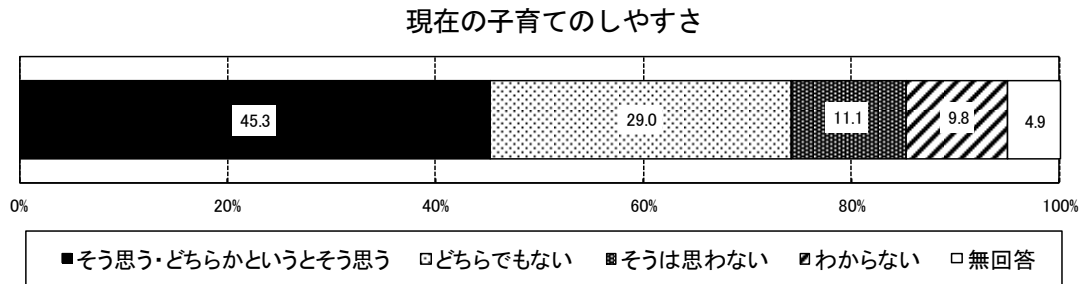


②子ども・子育て関係

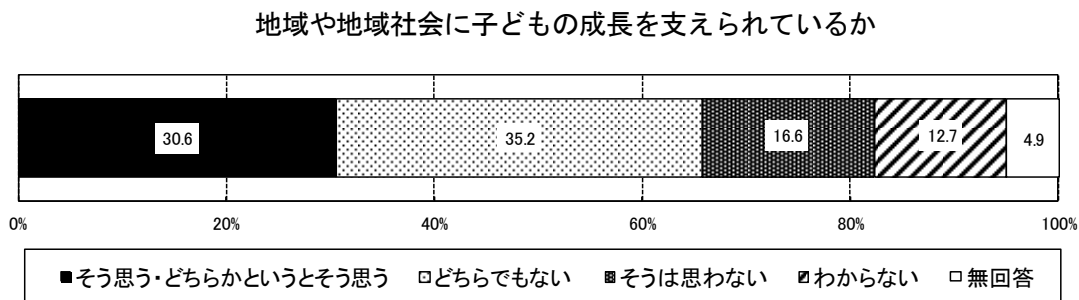
◎どのような生活を送りたいか

平成26年2月に町内の18歳以下の児童とその保護者を対象に「檜葉町子ども・子育てに関するニーズ調査」(N=307)を実施しました。

「現在の子育てのしやすさ」について尋ねたところ、「そう思う・どちらかというと思う」という肯定的な回答が半数弱でした。

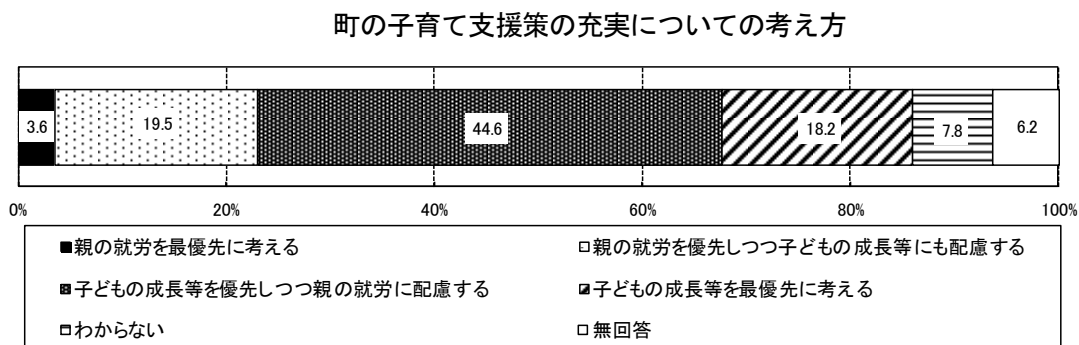


「地域や地域社会に子どもの成長を支えられているか」については、「そう思う・どちらかというと思う」が30.6%、「どちらでもない」が35.2%と拮抗していました。



◎町の施策で力を入れてほしいこと

「町の子育て支援策の充実についての考え方」については、「子どもの成長等を優先しつつ親の就労にも配慮する」が半数弱でした。

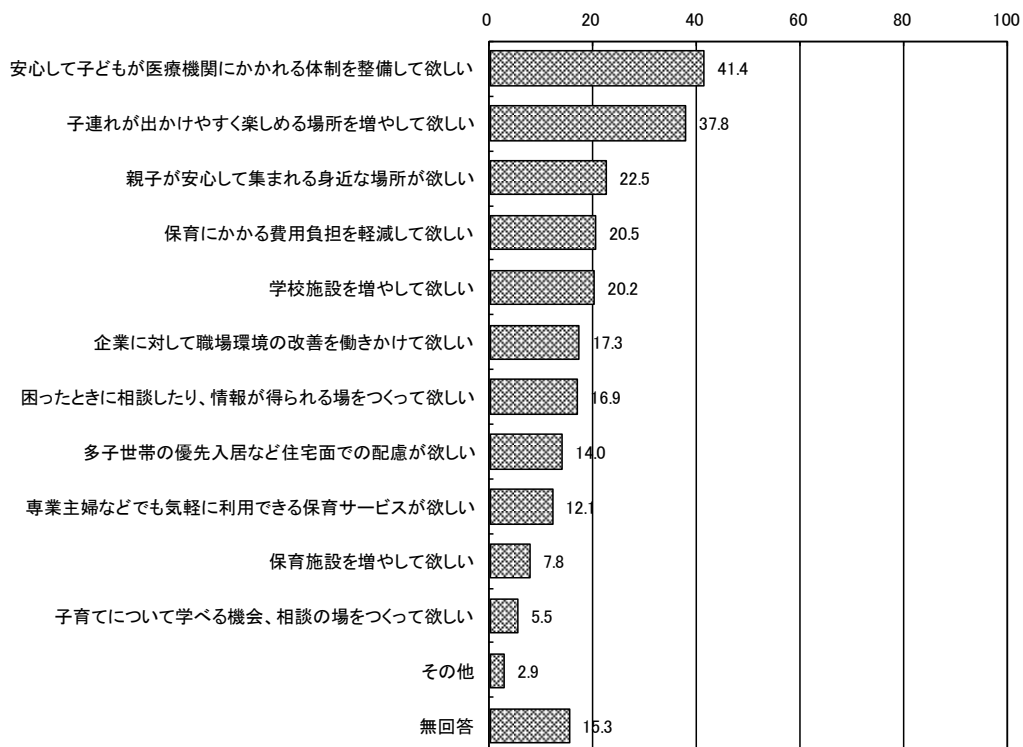


◎不安、心配に思っていること

「町の子育て支援についてどのような子育て支援の充実を図ってほしいか」については、多い順に「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備して欲しい(41.4%)」「子連れが出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい(37.8%)」「親子が安心して集まれる身近な場所が欲しい(22.5%)」「保育にかかる費用負担を軽減して欲しい(20.5%)」「学校施設を増やして欲しい(20.2%)」でした。

今後の子育て環境を充実させていくためには、医療機関をはじめ、楽しめる、集まれる場所、学校施設をつくる(整備する)こととともに、費用負担について考えていく必要があります。

町の子育て支援についてどのような子育て支援の充実を図ってほしいか



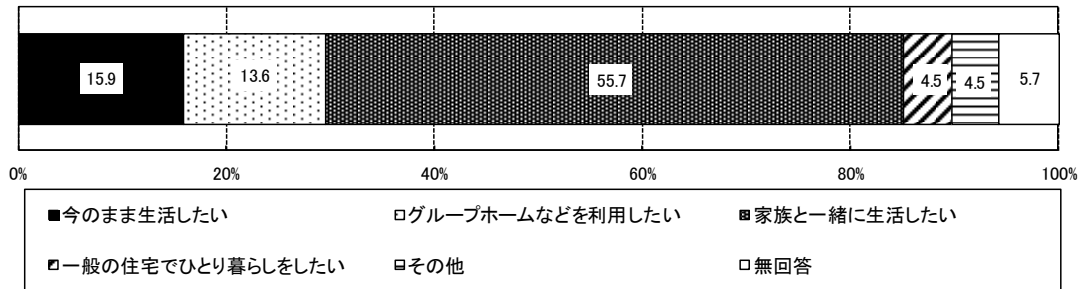
③障がい者

◎どのような生活を送りたいか

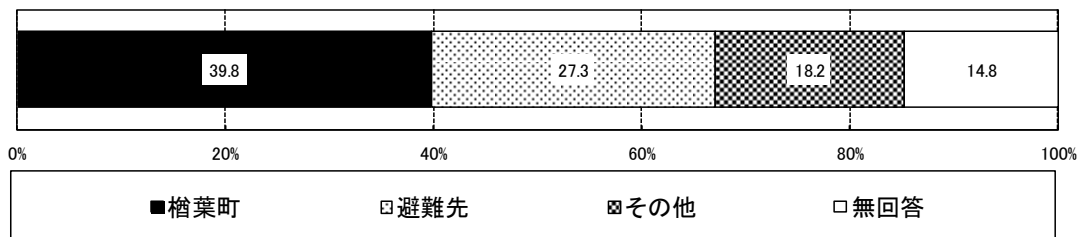
平成26年9月～10月に、64歳以下の町民の方で障害者手帳を交付されている方、障害福祉サービスを利用されている方に対して「福祉に関するアンケート調査」を実施しました（N=88）。

「どのように生活したいと思いますか」については、「家族と一緒に生活したい」が55.7%と最も多いです。また、どこで生活したいと思うかについては、「檜葉町」が39.8%とお最も多いです。

どのように生活したいと思うか（N=88）



どこで生活したいと思うか（N=88）

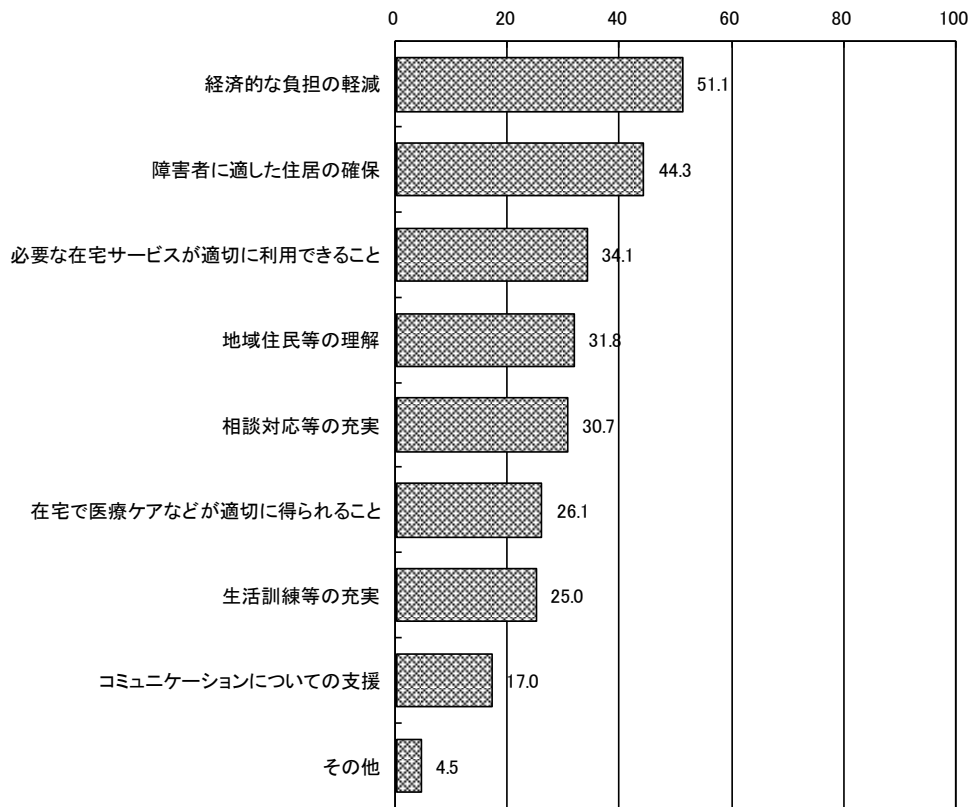


◎町の施策で力を入れてほしいこと

「地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか」については、「経済的な負担の軽減（51.1%）」「障害者に適した住居の確保（44.3%）」「必要な在宅サービスが適切に利用できること（34.1%）」の順でした。

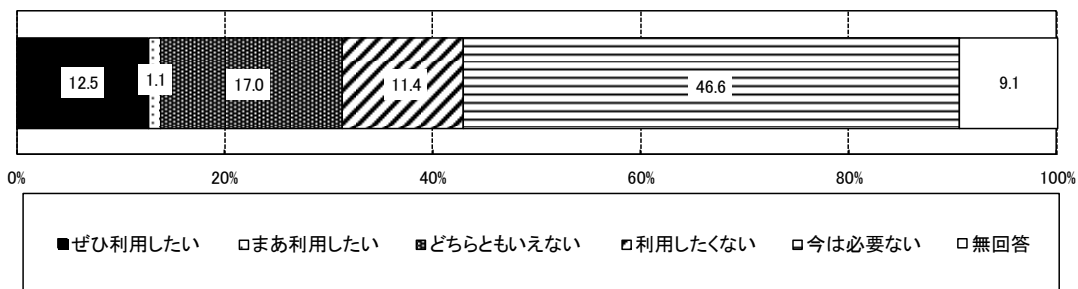
サービス提供と住居の充実を図り、経済的な負担を少なくしていくことが求められます。

地域における支援要望



「成年後見人制度を利用したいと思いますか」については、「今は必要ない」が46.6%と半数を占めていました。「ぜひ利用したい」は12.5%と少ない状況です。

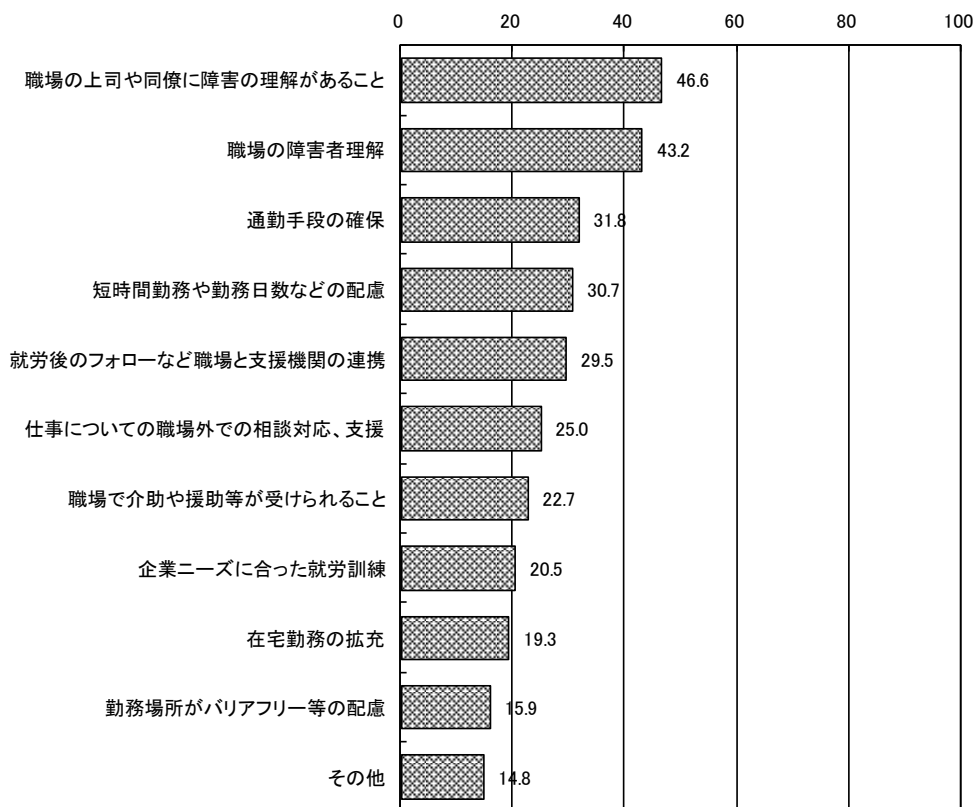
成年後見人制度の利用意向



「障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか」については、「職場の上司や同僚に障害の理解があること（46.6%）」「職場の障害者理解（43.2%）」の順でした。

職場における理解を進めるための、普及・啓発活動等を行うことが考えられます。

障害者の就労支援に必要なこと

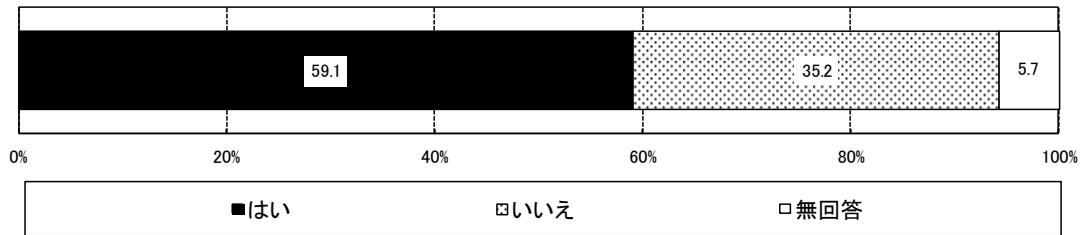


◎不安、心配に思っていること

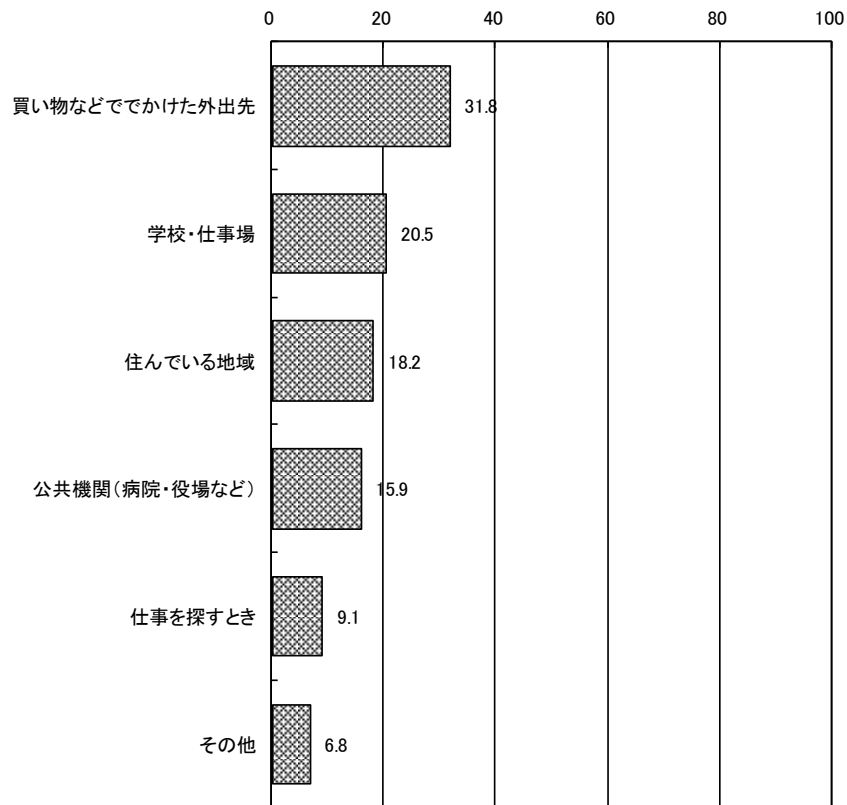
「障害があることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか」については、「ある」が59.1%と過半数であった。

「ある」という人に対して、どのような時に差別を受けたかについては、「買い物などで出かけた外出先（31.8%）」が最も多く、「学校・仕事場（20.5%）」「住んでいる地域（20.5%）」と続いています。

障害者あることでの差別（N=88）



どのような時に差別を受けたか（N=52）



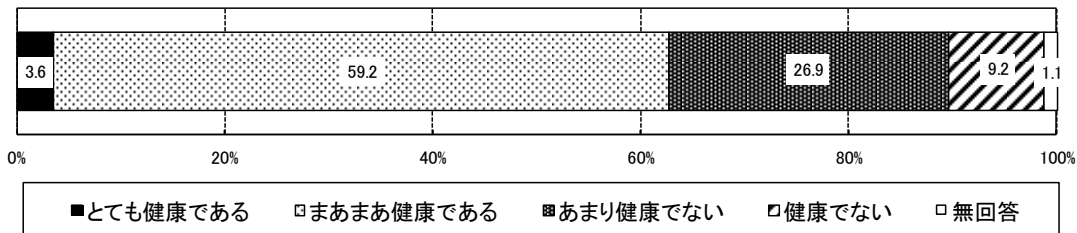
④健康について

◎どのような生活を送りたいか

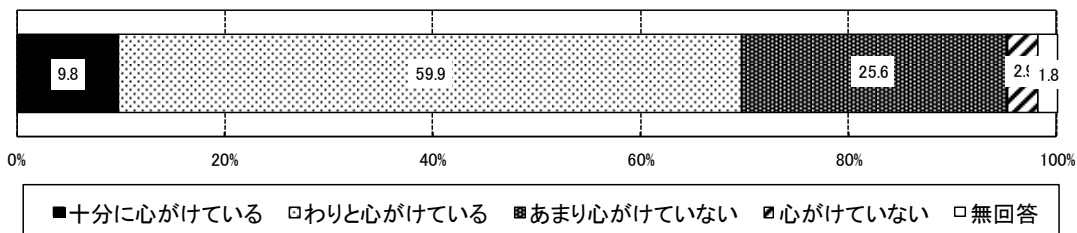
健康・医療に関する調査（平成26年9月調査）によると、健康かどうかという意識については、「まあまあ健康である」が59.2%で最も多い回答でした。

自分の年齢や体調にあった生活習慣を心がけているかについては、「わりと心がけている」が58.9%と最も多い回答でした。また、何らかの運動を30分以上しているかという問に対しては、8割がしているという回答であり、よく運動をしているとみることができます。

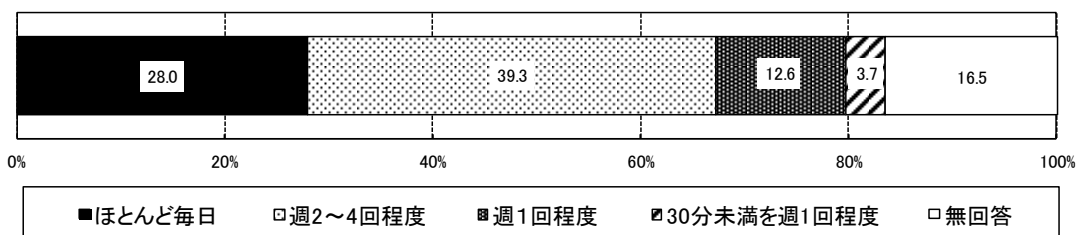
健康であるかどうか (N=1,846)



自分の年齢や体調にあった生活習慣を心がけているか (N=1,846)



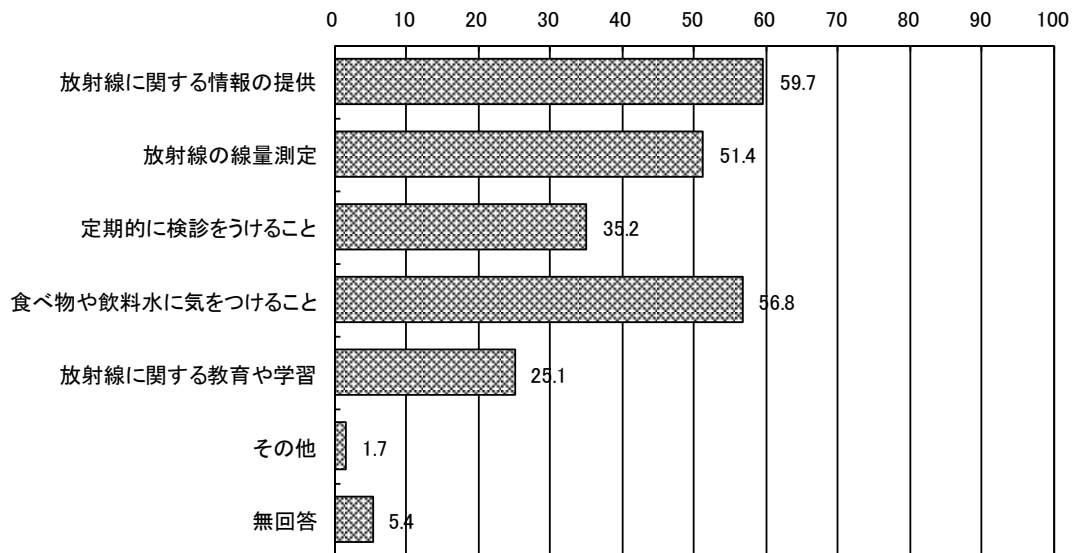
何らかの運動を30分以上しているか (N=1,066)



◎町の施策で力を入れてほしいこと

放射線に関する健康について特に重要と思うことについては、「放射線に関する情報の提供（59.7%）」
「放射線の線量測定（51.4%）」「食べ物や飲料水に気をつけること（56.8%）」が半数を超えていました。
健康づくりの視点から、これらに対する情報提供や支援を行うことが必要であると考えられます。

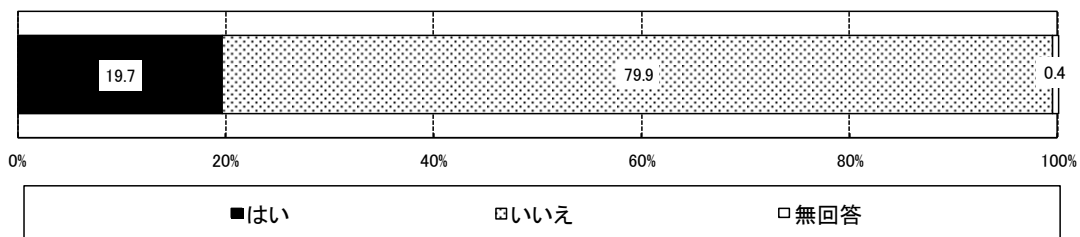
放射線に関する健康について特に重要と思うこと（N=1,846）



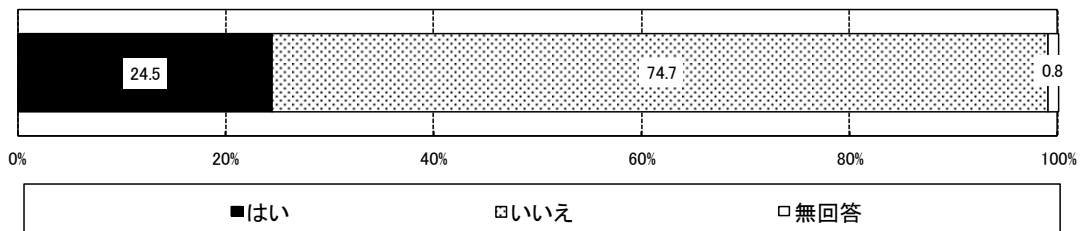
◎不安、心配に思っていること

心の健康度アンケート（平成26年度：N=1,116）によると、「この1ヶ月間、何をするにもほとんど
興味が無い、または、楽しめない状況が続いている」という割合は19.7%、「この1ヶ月間、気分が落ち
込んだり、希望がわからないという状況が続いている」という割合は24.5%でした。

興味が無い、楽しめない状況が続いている



気分が落ち込んだり、希望がわからないという状況が続いている



4. 計画策定にあたって

(1) 計画の組織図

保健福祉計画ビジョン				
	総括：住民福祉課長 副総括：住民福祉課長補佐			
策定検討会 メンバー	高齢者いきいきライフ21策定委員会 (10名)	健康づくり推進協議会検討会 (10名)	子ども・子育て支援事業計画策定委員会 (10名)	障がい者福祉計画策定委員会 (10名)
	○老人クラブ連合会 ○民生児童委員 ○介護指定事業者 ベルフラット ○檜葉ときわ園 ○リリー園 ○地域包括支援センター ○社会福祉協議会 ○一般財団法人ならはみらい ○保健師 ○生活支援課	○Jヴィレッジフィットネスクラブ ○栄養士 ○歯科衛生士 ○生き生き健康大学卒業者 ○食生活改善推進委員会 ○福島県放射線医学県民健康管理センター ○ふくしま心のケアセンター ○生活支援相談員 ○相双地区保健福祉事務所 ○住民福祉課国保年金係	○認定こども園 ○子育て支援センター ○児童館 ○檜葉小学校養護教諭 ○檜葉中学校養護教諭 ○住民代表 ○保健師 ○相双保健福祉事務所児童担当 ○教育総務課	○結いの里 ○ふたばの里 ○檜葉町手をつなぐ親の会 ○富夢想野の会 ○社会福祉協議会 ○のびっこらんど ○エデンの家 ○保健師 ○相双保健福祉事務所障がい担当
事務局	介護保険係	保健衛生係	社会福祉係	社会福祉係

(2) 計画策定の経過

<保健福祉計画策定スケジュール>

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会・委員会毎			○	○	○		○	○
アンケート集計・分析	集計	分析						
パブリックコメント							○	
素案計画策定			—————→					
計画書印刷								○

	日 時		検討内容予定
第1回策定委員会 平成26年 10月14日	13:30～15:30 健康づくり推進協議会検討会 子ども・子育て支援事業計画策定委員会 障がい者福祉計画策定委員会 高齢者生き生きライフ21策定委員会		・委嘱状交付 ・保健福祉計画の策定及び策定スケジュール ・町の復興計画及び保健福祉の現状について
第2回策定委員会 平成26年 11月5日	10:00～12:00 高齢者生き生きライフ21策定委員会 子ども・子育て支援事業計画策定委員会	13:30～15:30 障がい者福祉計画策定委員会 健康づくり推進協議会検討会	各委員会ごと検討会 【あるべき姿、目標】 【問題課題の整理と課題解決するための施策】
第3回策定委員会 平成26年 12月1日	10:00～12:00 高齢者生き生きライフ21策定委員会 子ども・子育て支援事業計画策定委員会	13:30～15:30 障がい者福祉計画策定委員会 健康づくり推進協議会検討会	各委員会ごと検討会 【問題課題の整理と課題解決するための施策】 【事業評価と事業計画】 【保健福祉ビジョン】
第4回策定委員会 平成27年 2月6日	13:30～15:30 健康づくり推進協議会検討会 子ども・子育て支援事業計画策定委員会 障がい者福祉計画策定委員会 高齢者生き生きライフ21策定委員会		各委員会ごと検討会 計画素案の検討
第5回策定委員会 平成27年 3月6日	13:30～15:30 健康づくり推進協議会検討会 子ども・子育て支援事業計画策定委員会 障がい者福祉計画策定委員会 高齢者生き生きライフ21策定委員会		計画案の検討